

スポーツに関する県民意識・実態調査（概要版）

目次

1. 調査概要	2	4. 調査結果（障害者調査）	28
2. 調査結果（成人調査）	4	（1）障害種別の構成比について	29
（1）県民のスポーツ実施状況	5	（2）運動やスポーツの必要性	30
（2）運動やスポーツをした理由	7	（3）スポーツ実施状況	31
（3）運動やスポーツをしなかった理由	8	（4）運動やスポーツをする理由	32
（4）運動やスポーツを一緒にした人	9	（5）運動やスポーツをする場所や施設	33
（5）子供のころのスポーツ実施状況と現在のスポーツ実施状況	11	（6）利用する場所や施設に関する課題	34
（6）運動やスポーツ、健康に関する意識	12	（7）運動やスポーツをしなかった理由	35
（7）「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツ	13	（8）「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツ	36
（8）観戦した種目	15	（9）障害者スポーツの充実・発展に重要なこと	37
（9）総合型地域スポーツクラブ	16	5. 全調査結果（オリンピック・パラリンピック等に関する項目）	38
（10）スポーツ実施や観戦の地域特性	17	（1）ラグビーワールドカップ／オリンピック・パラリンピックの認知度	
（11）今後、力を入れるべきスポーツ施策	18	（成人）	39
（12）充実させてほしいスポーツ施設	19	（2）ラグビーワールドカップ2019への関わり	
3. 調査結果（児童生徒調査）	20	（児童生徒・成人・障害者）	40
（1）運動やスポーツが好きか	21	（3）東京オリンピック・パラリンピックへの関わり	
（2）運動・スポーツが好きな理由／好きではない理由	22	（児童生徒・成人・障害者）	41
（3）スポーツ実施状況（体育の授業以外）	23	（4）県への誇り(児童生徒・成人・障害者)	42
（4）部活動やスポーツクラブへの加入状況	24		
（5）運動やスポーツを行った場所	25		
（6）健康や体力に対する意識と行動(中学生・高校生)	26		
（7）今後、力を入れるべきスポーツ施策(中学生・高校生)	27		

1. 調査概要

この概要版は、「スポーツに関する県民意識・実態調査」の結果を取りまとめたものです。

■ 調査の設計

1 調査の目的

本調査は、スポーツ基本法第10条の規定に基づく新たなスポーツ推進に関する計画を策定するに当たり、本県のスポーツに対する県民の意識を調査するとともに、県内のスポーツを取り巻く状況に関する情報を収集し、現在の課題の把握と今後の施策の方向性を見出すための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査の設計

- (1) 調査地域 埼玉県全域
(2) 調査対象・調査方法・抽出方法等 下記のとおり

対象	対象者数	回収数 (回収率)	調査方法	実施時期	割付・抽出方法
成人（県在住の20歳以上）	4,500人	4,500人 (-)	リサーチモニター を活用したイン ターネット調査	2016年8月	性別2区分×年代5区分×地 域10区分=100区分ごとに、 実際の人口比率に応じて 4,500人を割付
障害者（県在住の障害者本 人、または障害者の家族）	300人	300人 (-)	リサーチモニター を活用したイン ターネット調査	2016年8月	特別な割付なし

1. 調査概要

対象		対象者数	回収数（回収率）	調査方法	実施時期	割付・抽出方法
児童生徒	小学校5年生	387人	387人（100%）	学校を經由して、紙媒体の調査票を配布・回収	2016年 7月	学校種別の全公立学校リストより、所在地域のバランスに配慮して調査対象校を無作為抽出し、当該学校の特定学級（1学級）の全児童生徒を対象とした
	中学校2年生	412人	412人（100%）			
	高等学校2年生	463人	463人（100%）			

※児童生徒調査の回収率は、回収数／配布数。

- (3) 調査実施委託機関
株式会社三菱総合研究所

3 調査結果の見方

- (1) 図表中の[N=387]などの数値は、回答者数を示すものである。回答を複数選択できる場合（複数回答の場合）は、回答数の合計が回答者数を上回り、回答比率の合計が100%を超える。
- (2) 回答比率は、原則として回答者数Nを100%として算出する。回答比率は、図表中では小数点以下第2位を四捨五入して第1位まで表示する。このため、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- (3) 調査回答者の属性や設問は、無回答を除いているため、各調査対象の人数と一致しないことがある。

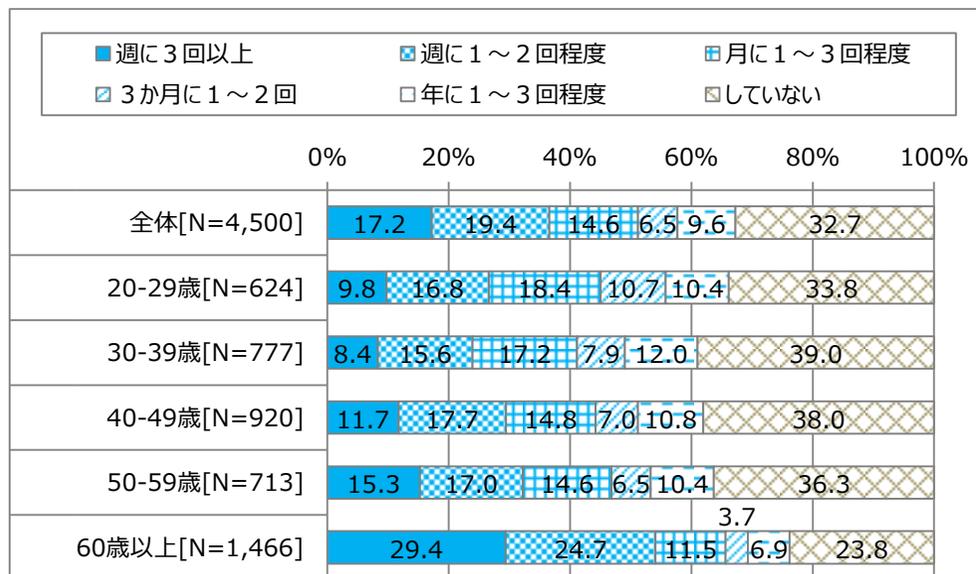
◆なお、後述の調査結果における「H21(年度)」とは、第1期埼玉県スポーツ推進計画(平成25～29年度)策定に際して、平成21年度に実施した「埼玉県民のスポーツに関する意識・実態調査」の結果である。

2. 調査結果（成人調査）

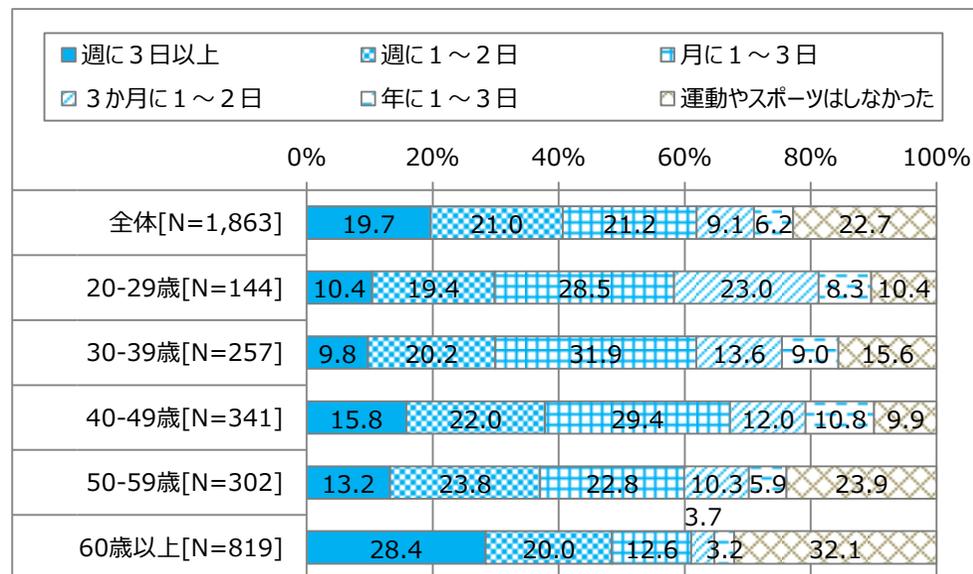
(1) 県民のスポーツ実施状況

- 県民のスポーツ実施状況は、「週に3回以上」17.2%、「週に1～2回程度」19.4%、「していない」32.7%であった。
- 年代別にみると、週に1回以上実施した割合は、**30代が最も低く**、以降、年代が上がるほど、実施した割合が高い。
- 類似の全国調査と比較すると、週に1回以上実施した割合は概ね同水準だが、「**していない**」と回答した割合が高い。
- 週に1回以上実施した割合を年代別にみると、20代～50代は全国よりも低いが、**60歳以上は、全国よりも高い**。

埼玉県民のスポーツ実施状況



全国のスポーツ実施状況



【参考】70歳以上：週に3回以上（38.6%）、週に1～2回程度（22.3%）、月に1～3回程度（9.8%）、3か月に1～2回（3.3%）、年に1～3回程度（6.2%）、していない（19.9%）

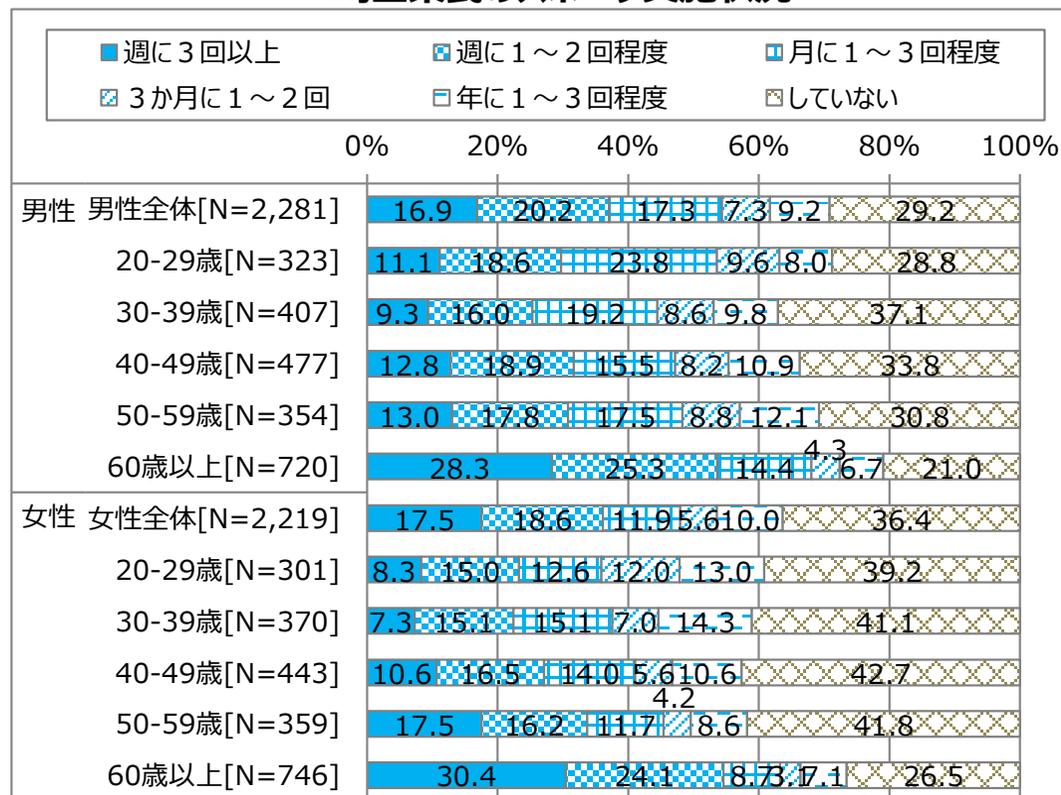
※70歳以上は、60歳以上のN=1,466のうち337。人口構成に応じて計画的に割り付けたカテゴリーではないので参考値扱い。

※平成27年度東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査（内閣府）（「わからない」を除いて再集計）

(1) 県民のスポーツ実施状況

➤ 週に1回以上実施した割合を性別、年代別にみると、**20代女性**（23.3%）、**30代女性**（22.4%）で**特に実施率が低い**。

埼玉県民のスポーツ実施状況



【参考】70歳以上（男性_N=178）：週に3回以上（38.8%）、週に1～2回程度（23.6%）、月に1～3回程度（10.1%）、3か月に1～2回（3.9%）、年に1～3回程度（7.3%）、していない（16.3%）

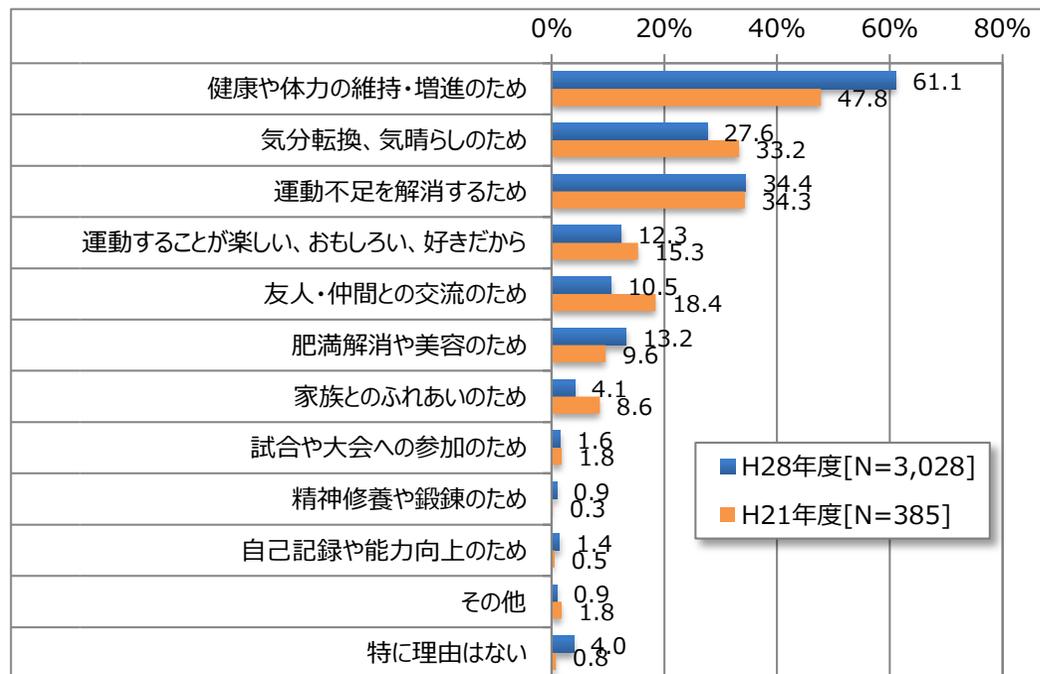
70歳以上（女性_N=151）：週に3回以上（40.4%）、週に1～2回程度（21.9%）、月に1～3回程度（9.9%）、3か月に1～2回（2.6%）、年に1～3回程度（0.0%）、していない（25.2%）

※70歳以上は人口構成に応じて計画的に割り付けたカテゴリーではないので参考値扱い。

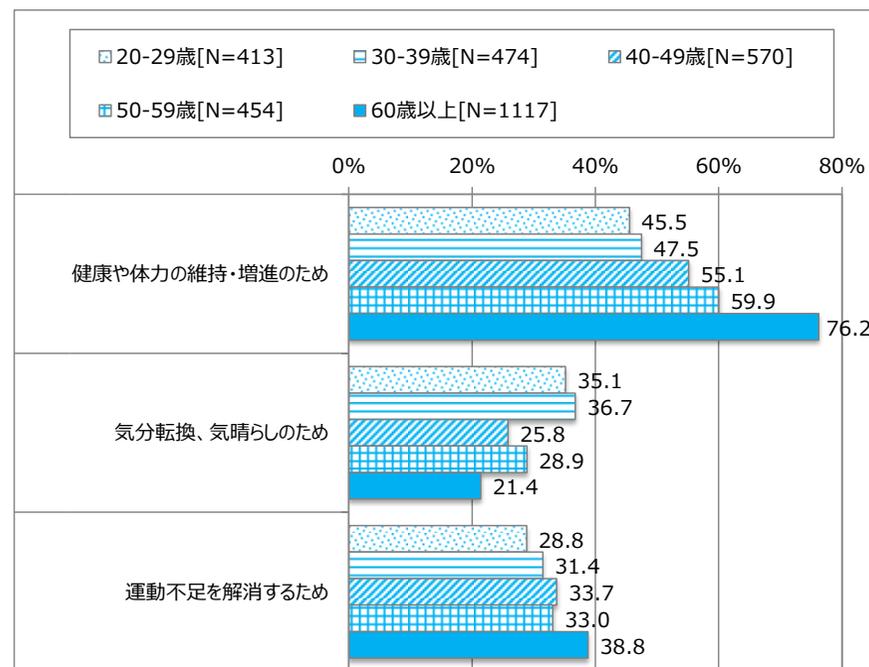
(2) 運動やスポーツをした理由

- 運動やスポーツをする理由は、「健康や体力の維持・増進のため」の割合が最も高く、H21と比較して割合は高まっている。
- 年代別にみると、20代は45.5%、60歳以上が76.2%であり、年代が上がるほど健康志向が高まる傾向にある。
- 「友人・仲間との交流のため」「家族とのふれあいのため」といった、スポーツを通じた交流に関する理由は、H21と比較して低下している。

運動やスポーツをした理由（H28とH21の比較）



運動やスポーツをした理由（年代別）



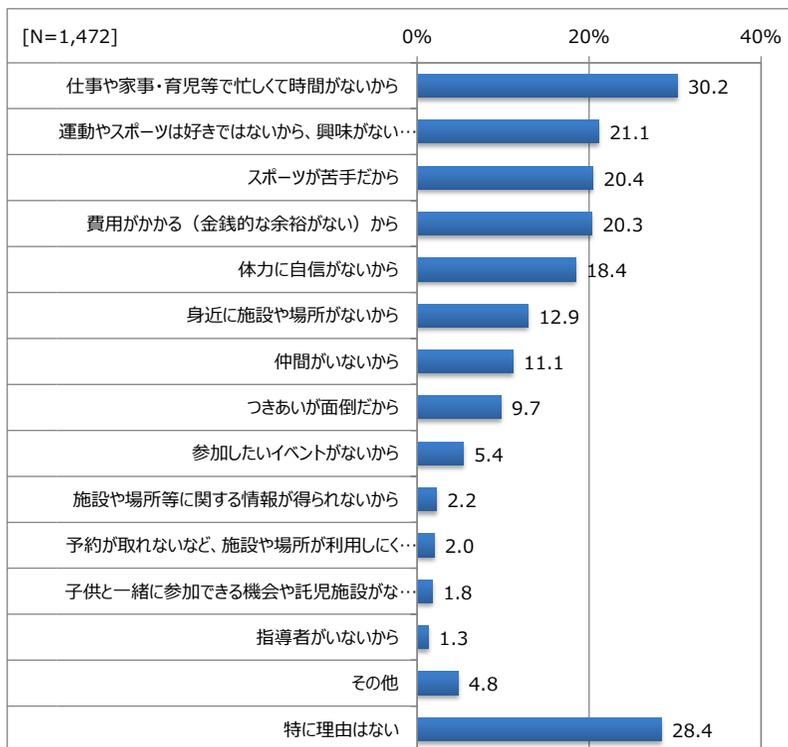
【参考】70歳以上：健康や体力の維持・増進のため（83.0%）、気分転換、気晴らしのため（16.7%）、運動不足を解消するため（36.7%）

※70歳以上は、60歳以上のN=1,117のうち224。人口構成に応じて計画的に割り付けたカテゴリーではないので参考値扱い。

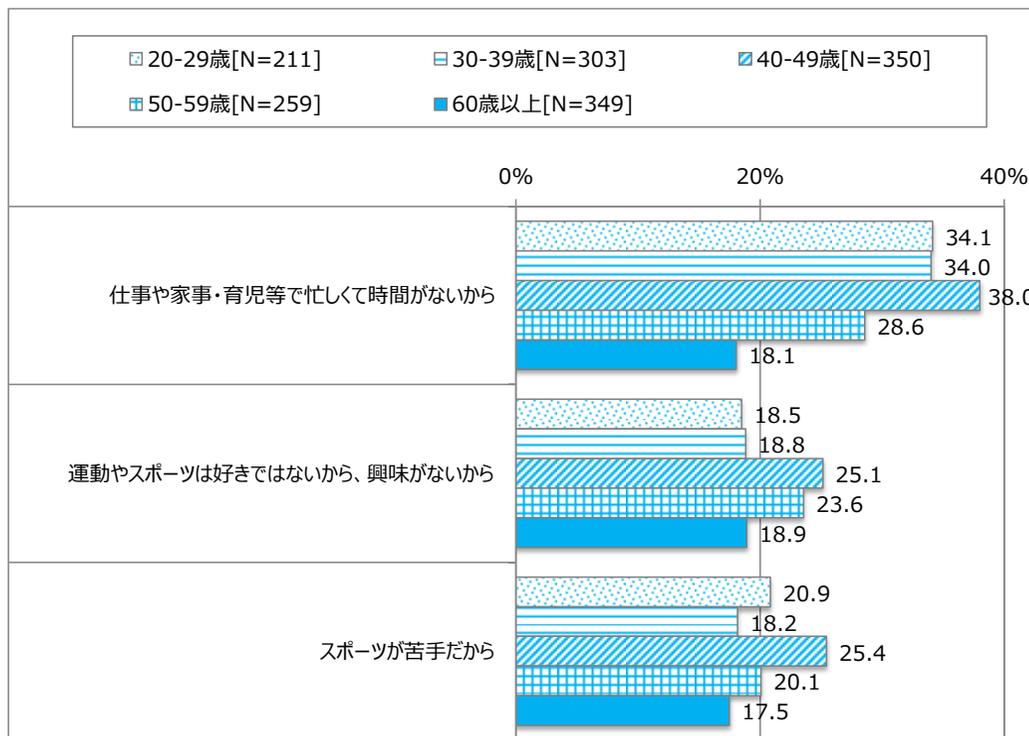
(3) 運動やスポーツをしなかった理由

- 運動やスポーツをしない理由は、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」の割合が最も高く、次いで、「運動やスポーツは好きではないから、興味がないから」、「スポーツが苦手だから」、「費用がかかるから」の順であった。
- 年代別にみると、特に、20代～40代で、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」の割合が高い。
- 「運動やスポーツは好きではないから、興味がないから」は、40代、50代で割合が高くなっている。

運動やスポーツをしなかった理由



運動やスポーツをしなかった理由（年代別）

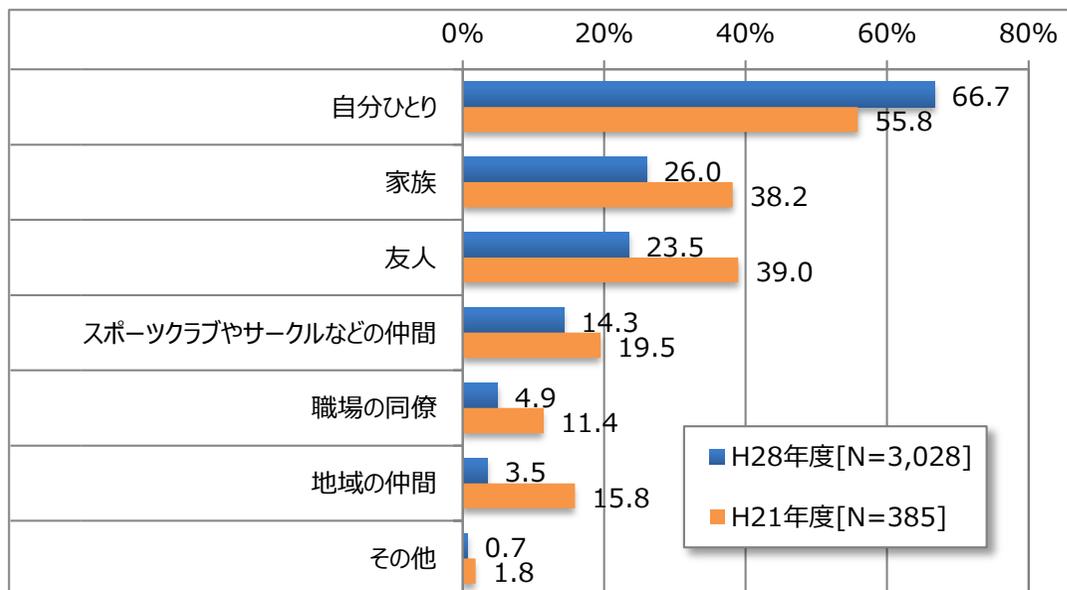


※70歳以上はサンプル数が少ない（N=67）ため未掲載

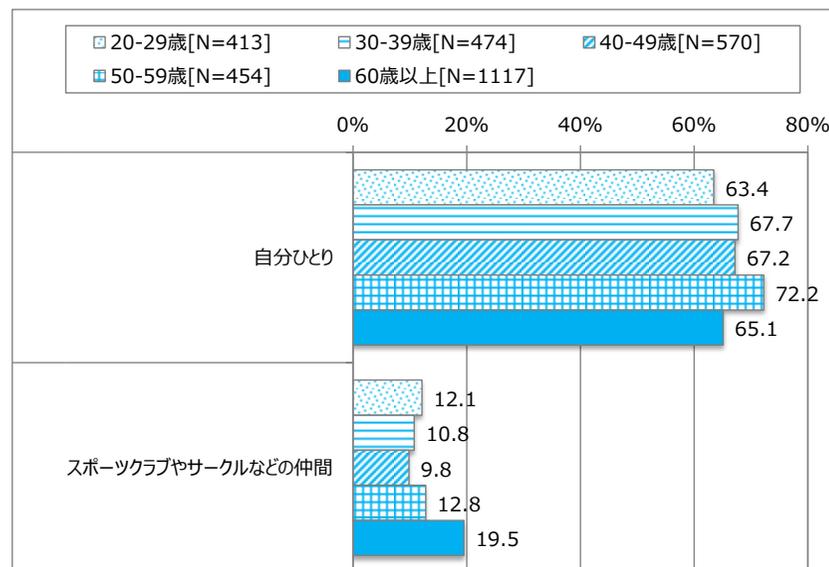
(4) 運動やスポーツを一緒にした人

- 誰と一緒にスポーツをしたかは、「自分ひとり」の割合が最も高く、H21と比較しても高くなっている。
- その一方で、家族、友人、スポーツクラブやサークルなどの仲間、職場の同僚、地域の仲間については、すべて低くなっており、全体的に**運動やスポーツの「ひとり化」**が進んでいる。
- 「自分ひとり」は、20代から60歳以上まで、すべての年代で60%を超えており、**「ひとり化」は世代共通の傾向**である。
- また、**60歳以上は「スポーツクラブやサークルなどの仲間」と一緒に運動やスポーツをした人の割合が他の世代と比較して高い**（60歳以上19.5%、他の世代9.8%～12.8%）。

運動やスポーツを一緒にした人（H28とH21の比較）



運動やスポーツを一緒にした人（年代別）



【参考】70歳以上：自分ひとり（60.4%）、スポーツクラブやサークルなどの仲間（21.9%）

※70歳以上は、60歳以上のN=1,117のうち270。人口構成に応じて計画的に割り付けたカテゴリーではないので参考値扱い。

(4) 運動やスポーツを一緒にした人

- 誰と運動やスポーツを一緒にしたかについて、「自分ひとり」を選択した人と選択しなかった人で、実施した運動やスポーツの種目を比較した。
- 「ウォーキング・散歩」は、「自分ひとり」を選択した人が20ポイント以上、上回った。
- 「自分ひとり」を選択した人のみで、上位10種目に入った種目は、「ジョギング・ランニング」、「サイクリング」、「登山（トレッキングなど）」であった。

実施した運動やスポーツ（自分ひとり／誰かと一緒に）

	自分ひとり[N=2,021]	割合(%)	誰かと一緒に[N=1,007]	割合(%)
1	ウォーキング・散歩	73.1	ウォーキング・散歩	52.2
2	ジョギング・ランニング	18.1	ゴルフ（コース）	12.6
3	筋力・ウエイトトレーニング	16.0	体操（ストレッチ, ラジオ体操等）	10.3
4	水泳	12.4	水泳	9.8
5	体操（ストレッチ, ラジオ体操等）	11.0	ゴルフ（練習場）	9.2
6	サイクリング	9.8	ヨガ・ピラティス	8.4
7	ゴルフ（コース）	9.1	筋力・ウエイトトレーニング	7.8
8	ヨガ・ピラティス	8.9	ボウリング	7.5
9	ゴルフ（練習場）	8.4	卓球	7.3
10	登山（トレッキングなど）	6.9	テニス（硬式）	7.1

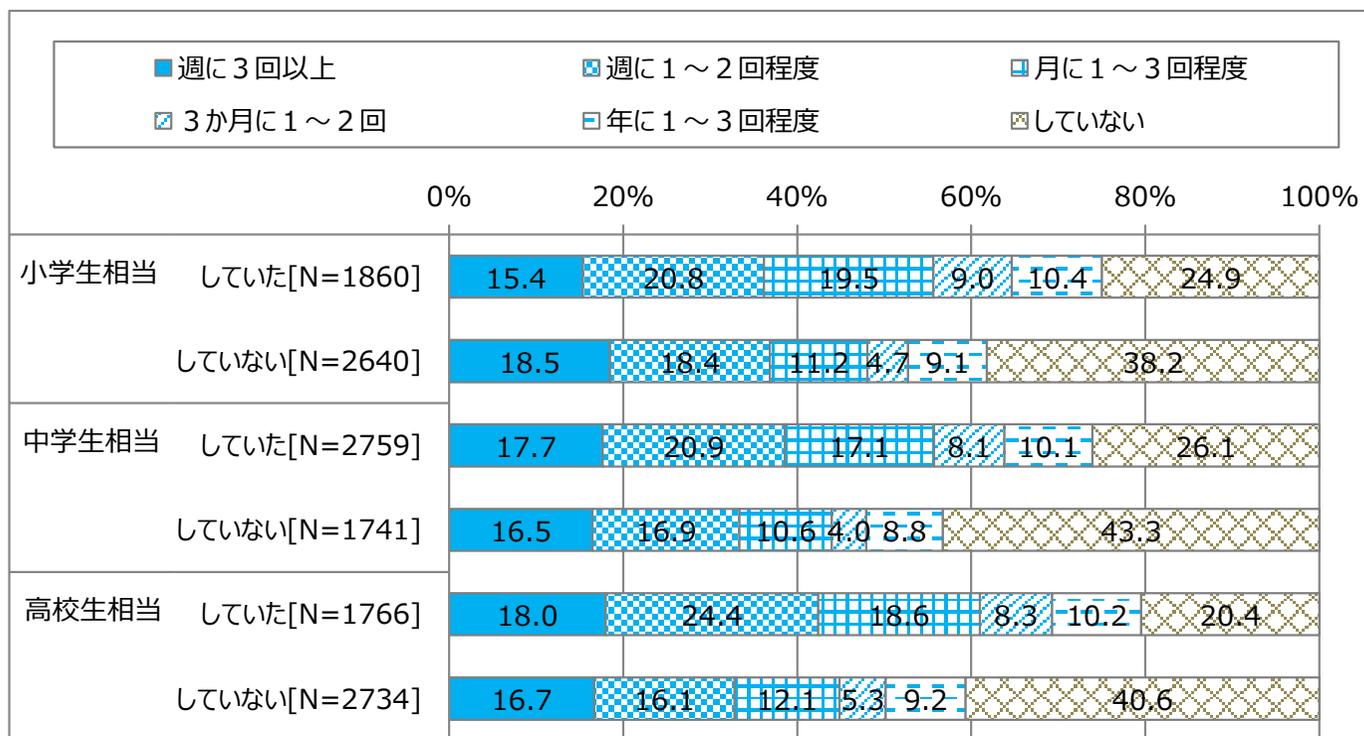
※複数回答のため、「自分ひとり」を選択した人も、誰かと一緒に運動やスポーツをすることがある。

※また、種目ごとに、誰と一緒にしたかを聞いた設問ではない。

(5) 子供のころのスポーツ実施状況と現在のスポーツ実施状況

- 小学生～高校生の年代によらず、**子供のころ運動やスポーツをしていた人は、していなかった人と比較して、現在、「していない」人の割合が低い。**
- 特に、**高校生年代で運動やスポーツをしていた人は、していなかった人と比較して、週に1回以上実施している人の割合も高い。**

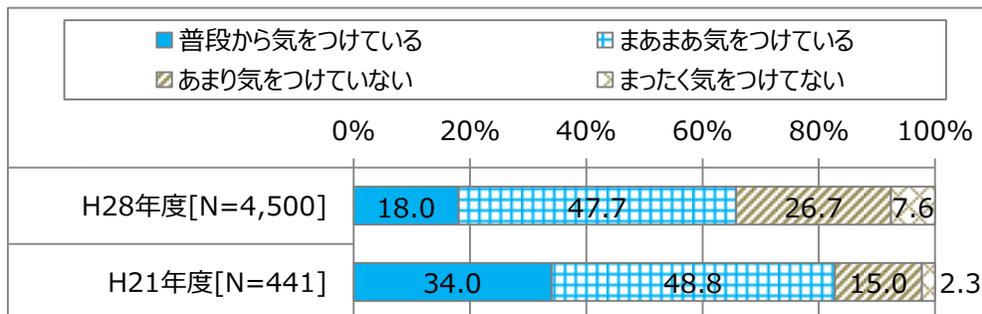
子供時代のスポーツ実施と現在のスポーツ実施



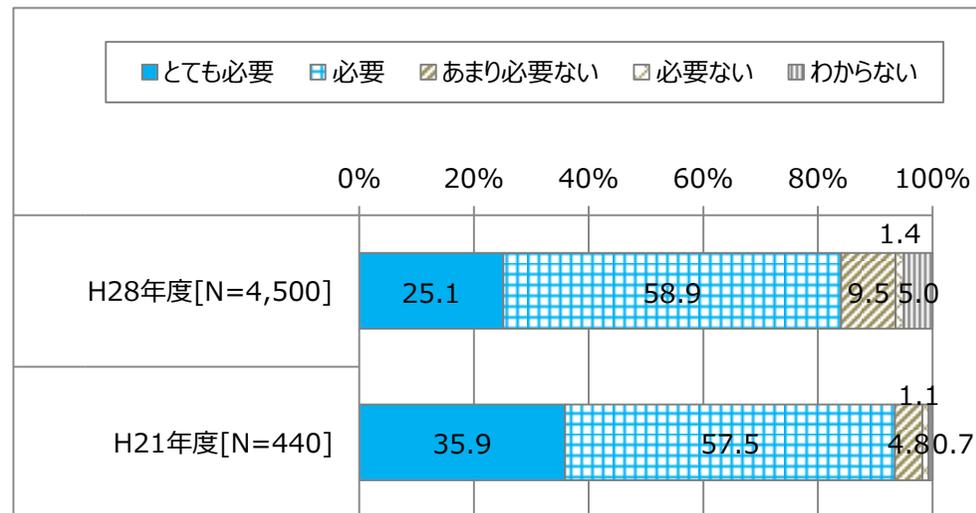
(6) 運動やスポーツ、健康に関する意識

- H21と比較すると、健康や体力に「普段から気をつけている」「まあまあ気をつけている」人の割合は減少。
- 同じく、日常生活の中で運動やスポーツが「とても必要」「必要」と思っている人の割合も減少している。
- 運動不足を感じているかについては、「非常に強く感じている」「感じることが多い」の割合はほぼ横ばい。

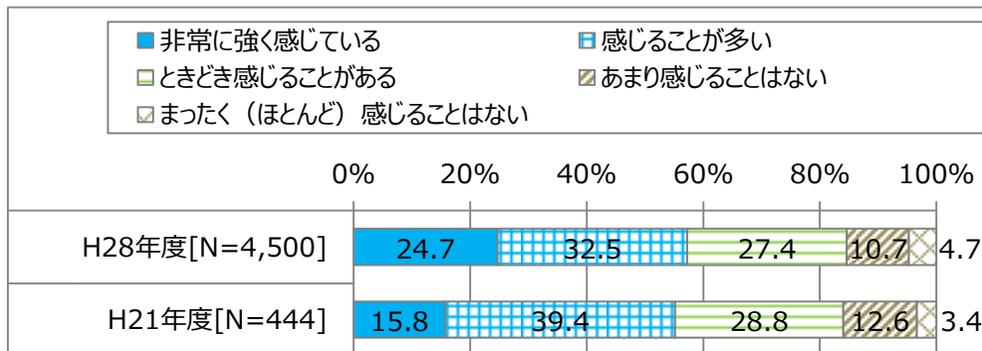
健康や体力の維持・増進に気をつけているか



日常生活の中で運動やスポーツが必要だと思うか



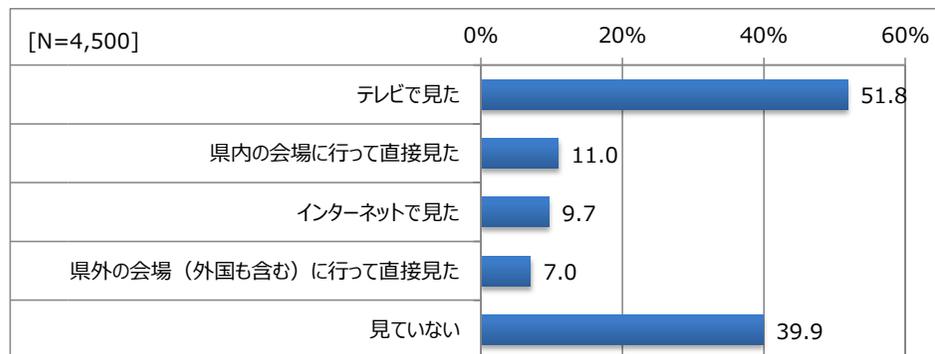
運動不足を感じているか



(7) 「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツ

- 過去1年間に「県内の会場に行って」スポーツ観戦をした人は11.0%、「県外の会場に行って」スポーツを観戦した人は、7.0%であった。
- また、過去1年間にボランティア活動を行った人は3.9%であった。今後、「ぜひしてみたい」「できればしてみたい」と回答した人の合計は、20.4%であった。

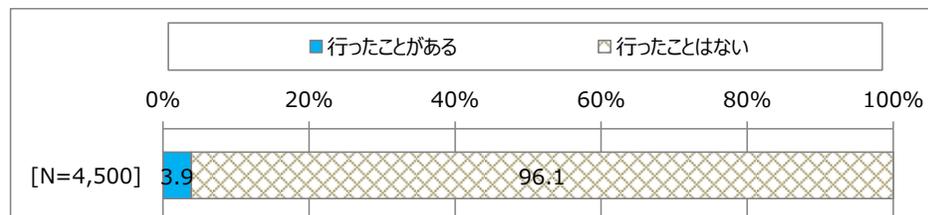
過去1年間のスポーツ観戦



参考：スポーツライフデータ2014（全国調査）

- 会場での直接スポーツ観戦 31.6%
- テレビでのスポーツ観戦 90.6%

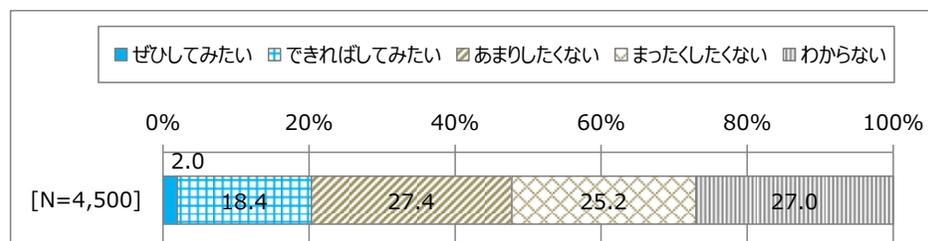
過去1年間のボランティアの実施状況



参考：スポーツライフデータ2014（全国調査）

- この20年間、6.1~8.4%で推移

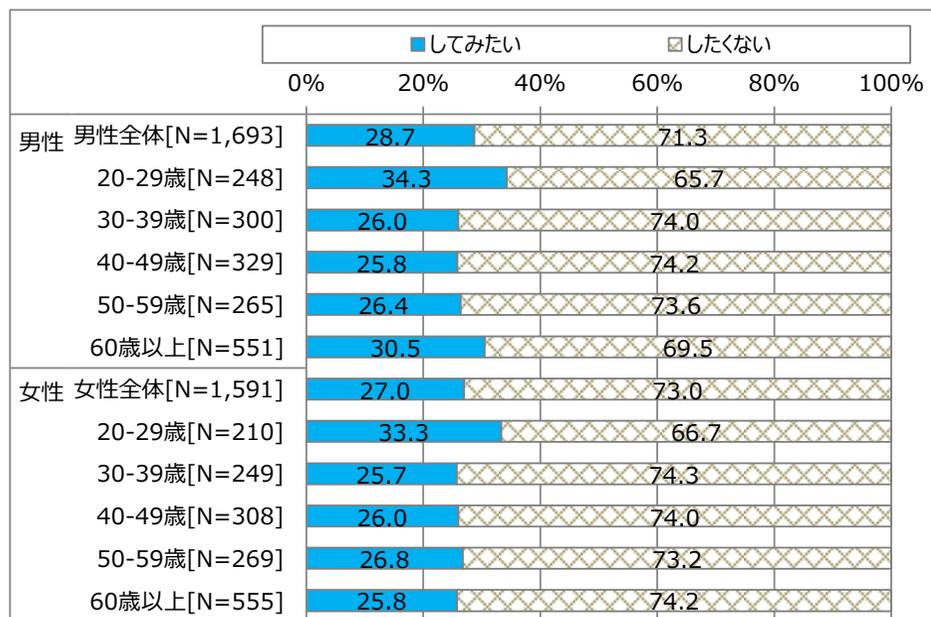
ボランティアの今後の活動意向



(7) 「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツ

- 今後、ボランティアをしてみたい人（「ぜひしてみたい」「できればしてみたい」の合計）、したくない人（「あまりしたくない」「まったくしたくないの合計」）の比較を行った。
- 性別、年代別にみると、男女とも20代がやや「してみたい」割合が高いが、それ以外は、性別、年代別に大きな差はない。
- スポーツ実施の有無別にみると、スポーツ実施者は、ボランティアを「してみたい」が35.8%であったが、スポーツ未実施者は10.5%にとどまった。

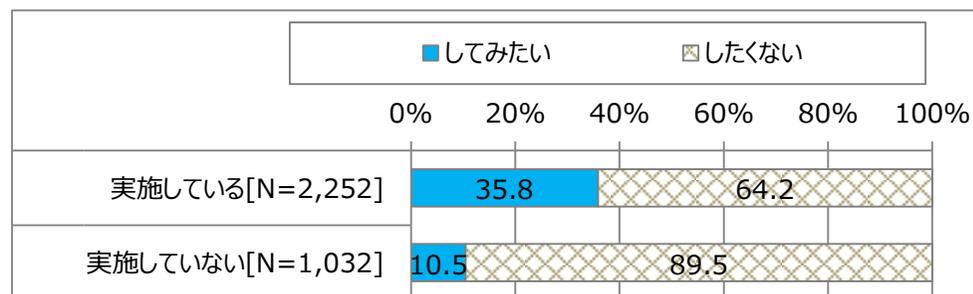
ボランティアの今後の活動意向（性別、年代別）



【参考】70歳以上（男性_N=134）：してみたい（33.6%）、したくない（66.4%）
 70歳以上（女性_N=121）：してみたい（25.6%）、したくない（74.4%）

※70歳以上は人口構成に応じて計画的に割り付けたカテゴリーではないので参考値扱い。

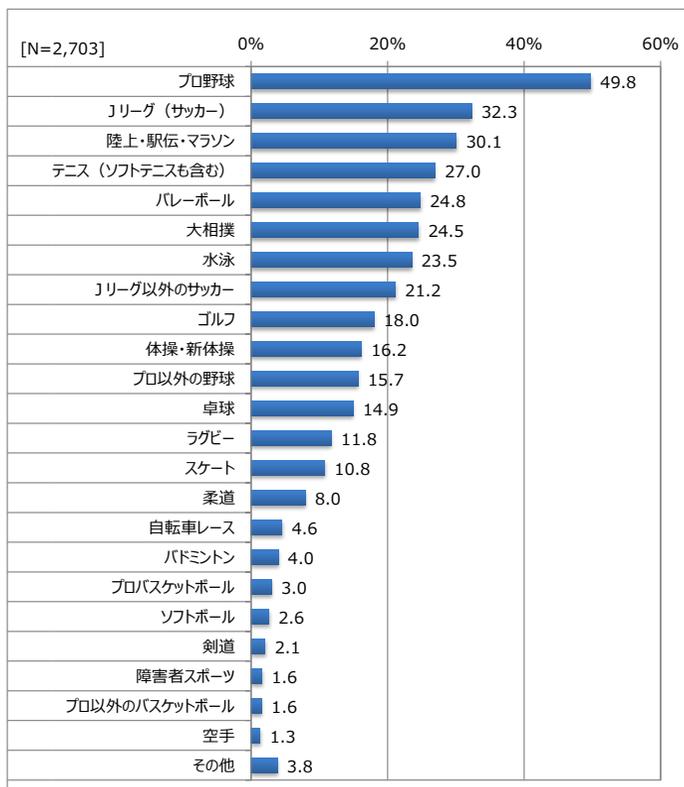
ボランティアの今後の活動意向（スポーツ実施の有無別）



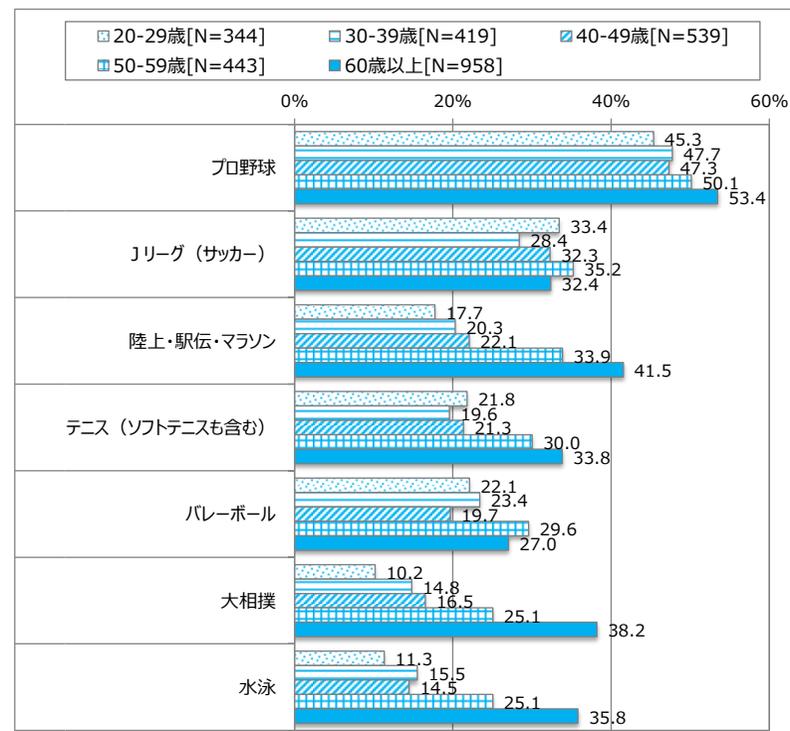
(8) 観戦した種目

- 会場やテレビで観戦した人のうち、約半数は「プロ野球」を観戦していた。次いで、「Jリーグ」、「陸上・駅伝・マラソン」、「テニス」、「バレーボール」、「大相撲」の順であった。
- 年代別にみると、「プロ野球」、「Jリーグ」は、比較的年代間の偏りが無い。
- 「陸上・駅伝・マラソン」、「テニス」、「大相撲」、「水泳」は、上の年代ほど、観戦した割合が高い傾向にある。

観戦した種目



観戦した種目 (年代別)

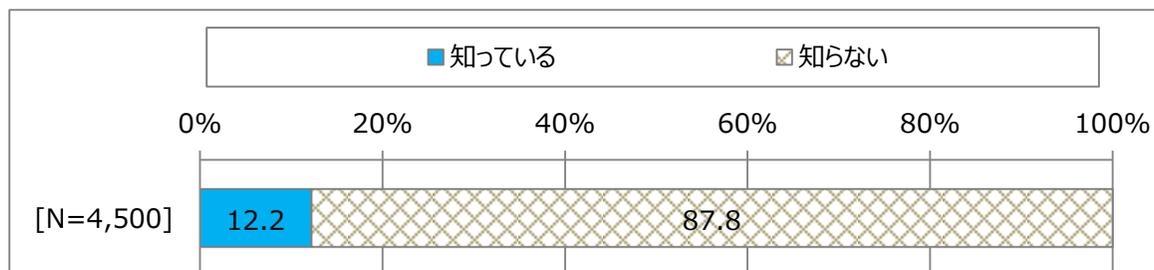


【参考】70歳以上：プロ野球（63.0%）、Jリーグ（サッカー）（35.6%）、陸上・駅伝・マラソン（42.5%）、テニス（34.7%）、バレーボール（28.8%）、大相撲（44.7%）、水泳（37.4%）
 ※70歳以上は、60歳以上のN=958のうち219。人口構成に応じて計画的に割り付けたカテゴリーではないので参考値扱い。

(9) 総合型地域スポーツクラブ

- 総合型地域スポーツクラブを「知っている」人は、12.2%であった。
- 知っている人は1割強にとどまる一方で、**約半数が、「ぜひ入りたい」「会費や種目などの条件が合えば入りたい」と回答した。**

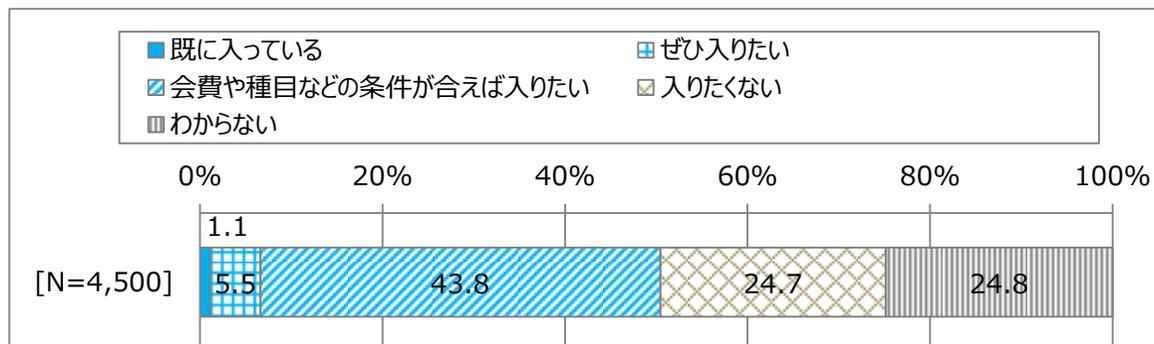
総合型地域スポーツクラブの認知度



参考：千葉県

■総合型地域スポーツクラブの認知度 10.2% (平成24年度)

総合型地域スポーツクラブへの加入意向



(10) スポーツ実施や観戦の地域特性

- 過去1年間に行った運動やスポーツの種目は、県北において、ゴルフを実施した人の割合が高い。
- また、過去1年間に観戦したスポーツは、埼玉西武ライオンズ（所沢市）がある**県西ではプロ野球**を観戦した人の割合が高く、浦和レッドダイヤモンズ（さいたま市）、大宮アルディージャ（さいたま市）がある**県南ではJリーグ**を観戦した人の割合が高い。**県北では**、ゴルフを始め、陸上・駅伝・マラソン、バレーボールなど、**スポーツ観戦が盛ん**である。

過去1年間に行った種目

上位10種目	全体 [N=4,500]	県東 [N=1,112]	県西 [N=993]	県南 [N=2,001]	県北 [N=394]
1 ウォーキング・散歩	44.5	43.1	47.0	44.2	43.9
2 ジョギング・ランニング	9.5	8.8	9.3	10.0	9.1
3 筋力・ウエイトトレーニング	9.0	9.4	9.3	8.9	7.4
4 水泳	7.8	6.6	9.4	8.0	6.1
5 体操（ストレッチ、ラジオ体操等）	7.2	6.6	8.2	7.4	6.1
6 ゴルフ（コース）	6.9	5.8	7.0	6.6	10.7
7 ヨガ・ピラティス	5.9	5.0	5.6	6.5	5.6
8 ゴルフ（練習場）	5.8	5.0	5.8	5.6	9.1
9 サイクリング	4.8	5.0	5.9	4.3	5.3
10 登山（トレッキングなど）	4.7	4.6	3.9	5.8	4.4

※網掛けは、全体平均より3ポイント以上高い種目

過去1年間に観戦したスポーツ

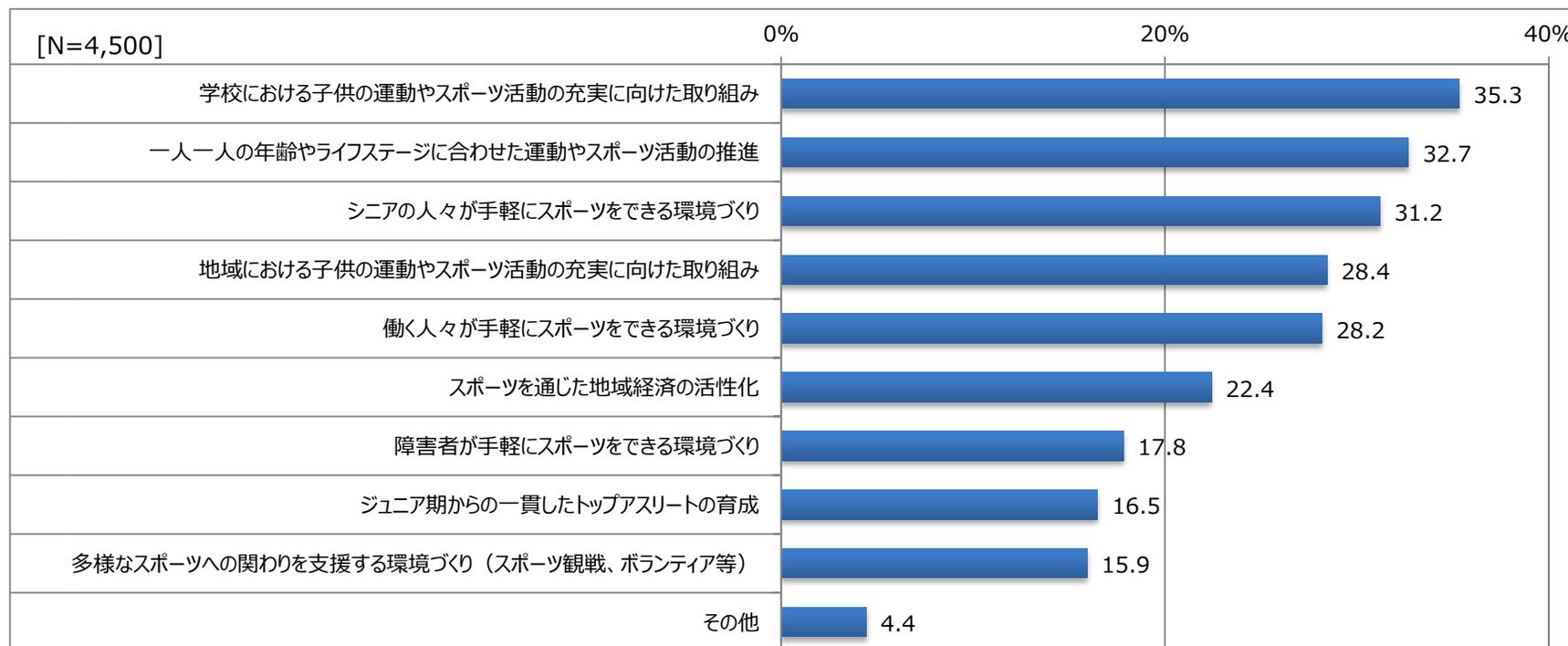
上位10種目	全体 [N=3,028]	県東 [N=674]	県西 [N=576]	県南 [N=1,225]	県北 [N=228]
1 プロ野球	49.8	48.4	56.4	47.3	50.0
2 Jリーグ（サッカー）	32.3	31.2	27.6	35.9	28.5
3 陸上・駅伝・マラソン	30.1	30.3	31.9	27.8	37.3
4 テニス（ソフトテニスも含む）	27.0	27.7	29.0	26.1	24.1
5 バレーボール	24.8	27.3	26.0	21.2	33.3
6 大相撲	24.5	26.4	22.7	23.8	27.2
7 水泳	23.5	23.6	24.5	22.0	28.9
8 Jリーグ以外のサッカー	21.2	23.1	19.1	21.9	16.7
9 ゴルフ	18.0	17.1	21.0	16.2	22.8
10 体操・新体操	16.2	15.1	19.8	14.4	19.3

※網掛けは、全体平均より3ポイント以上高い種目

(11) 今後、力を入れるべきスポーツ施策

- ▶ 今後、力を入れるべきスポーツ施策は、「**学校**における**子供**の運動やスポーツ活動の充実に向けた取り組み」の割合が**最も高く**、次いで、「一人一人の年齢や**ライフステージ**に合わせた**運動やスポーツ**活動の推進」、「**シニア**の人々が手軽にスポーツをできる環境づくり」、「**地域**における**子供**の運動やスポーツ活動の充実に向けた取り組み」であった。
- ▶ するスポーツの推進、環境整備に関連する施策が多い中、「**スポーツを通じた地域経済の活性化**」も**22.4%**の人が重視すべきと回答した。

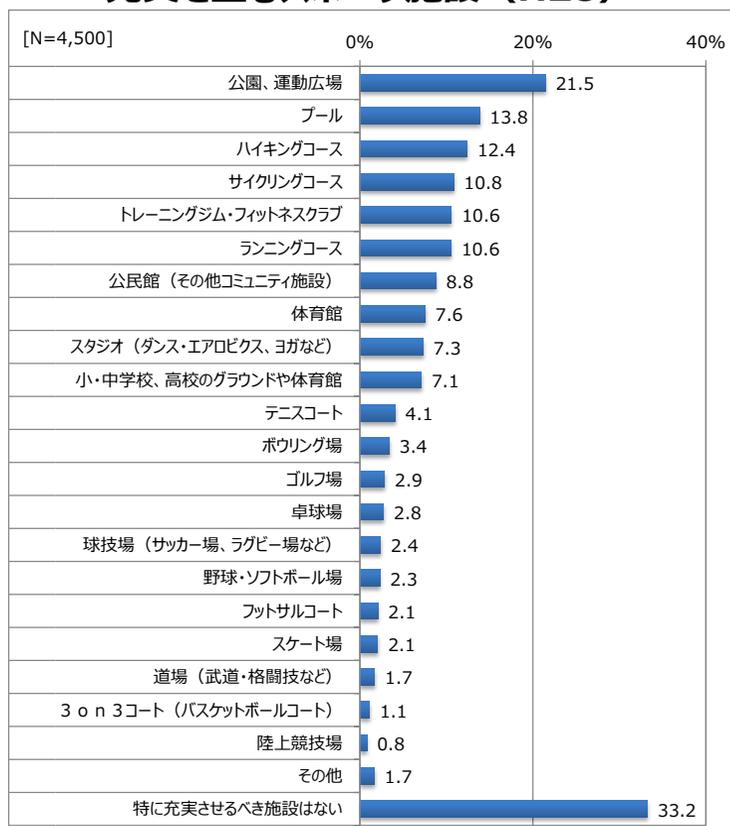
今後、力を入れるべきスポーツ施策



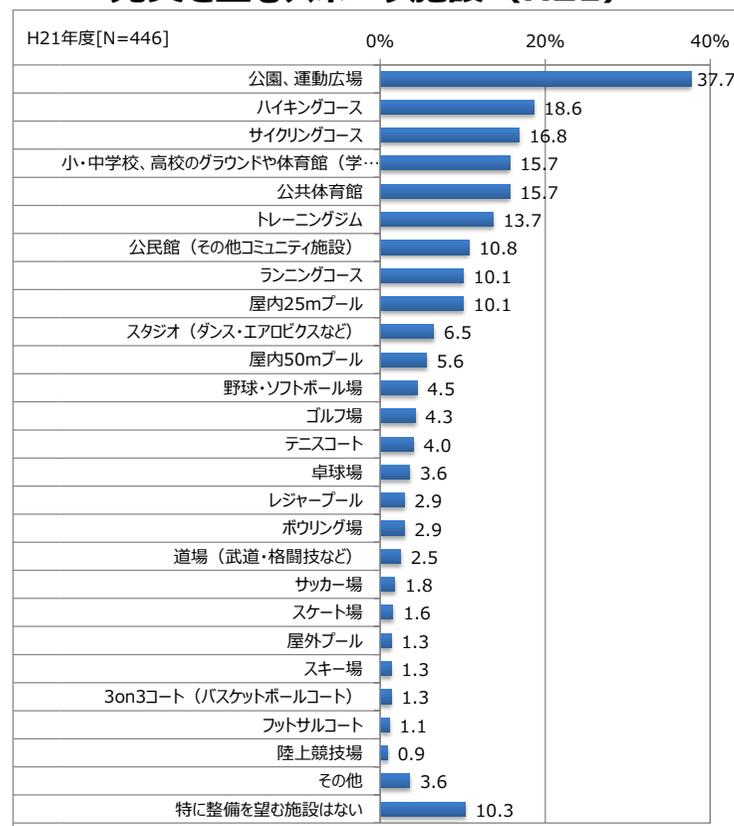
(12) 充実させてほしいスポーツ施設

- 充実させてほしい施設は、「公園、運動広場」の割合が最も高く、「プール」、「ハイキングコース」、「サイクリングコース」、「トレーニングジム」、「ランニングコース」が10%超となっている。
- H21と比較すると、全体的に、回答率は低くなっており、「特に充実させるべき施設はない」は、10.3%から33.2%に増加した。

充実を望むスポーツ施設 (H28)



充実を望むスポーツ施設 (H21)

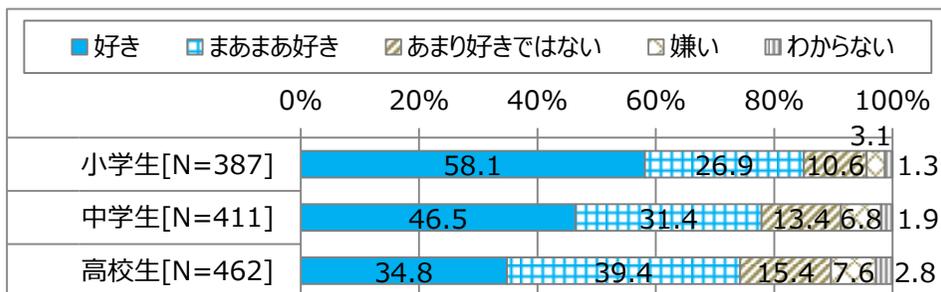


3. 調査結果（児童生徒調査）

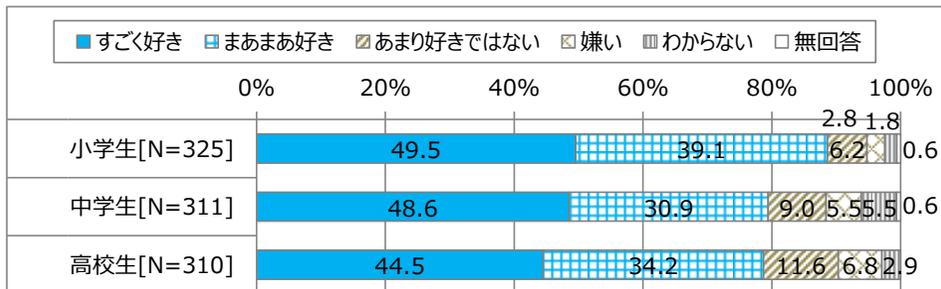
(1) 運動やスポーツが好きか

- 「好き」「まあまあ好き」の割合の合計は、小学生85.0%、中学生77.9%、高校生74.2%であり、年代が上がるごとに、徐々に運動・スポーツ好きな児童生徒の割合が低くなり、嫌いな児童生徒の割合が高くなる傾向にあり、H21も概ね同水準であった。
- 性別で比較すると、女子は、男子と比較して、すべての年代において運動・スポーツが「好き」の割合が低い傾向にある。

運動やスポーツが好きか (H28)

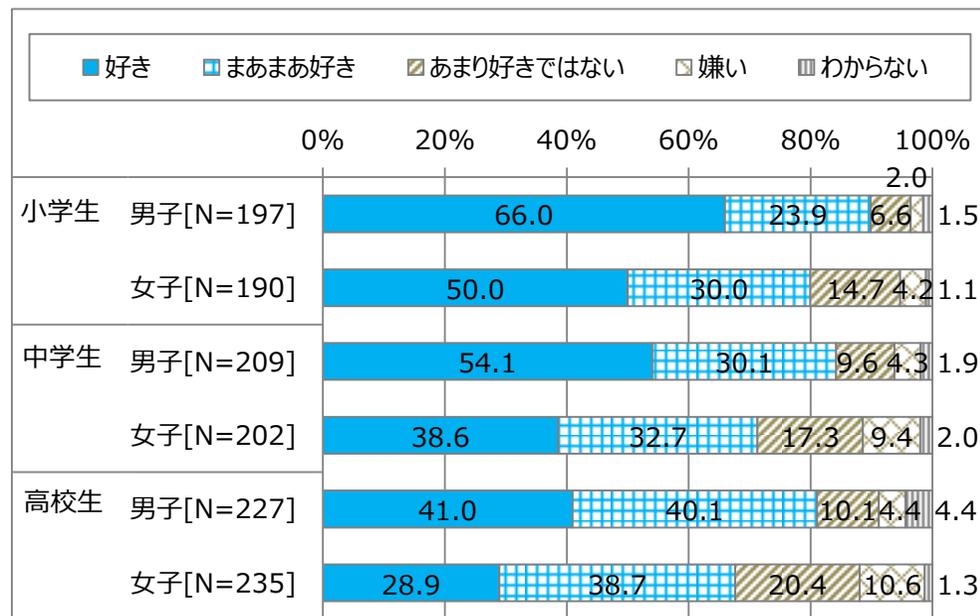


運動やスポーツが好きか (H21)



※H21の高校生調査は対象校が1校だったため参考扱い。

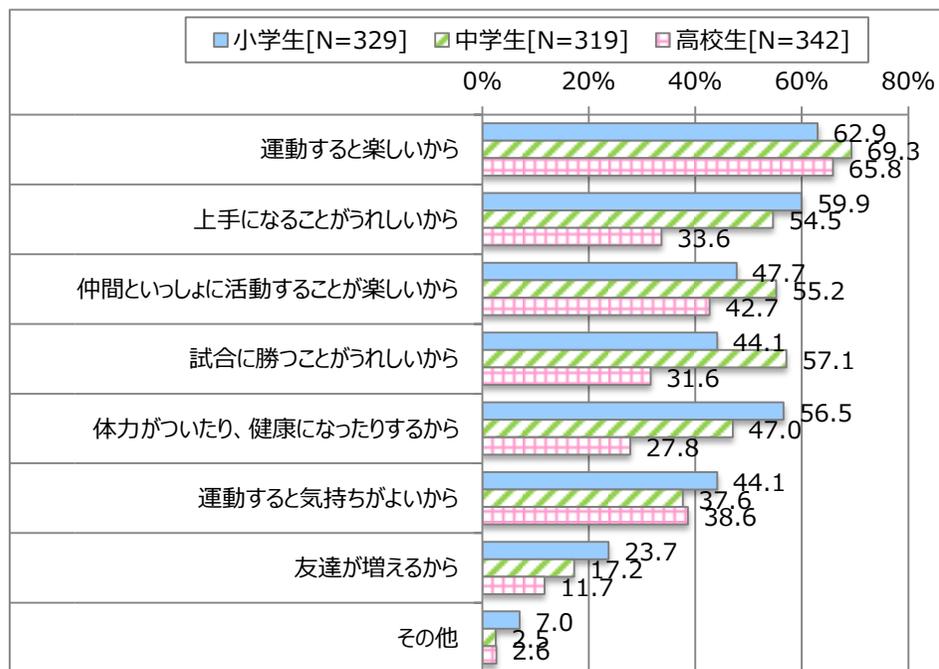
運動やスポーツが好きか (性別) (H28)



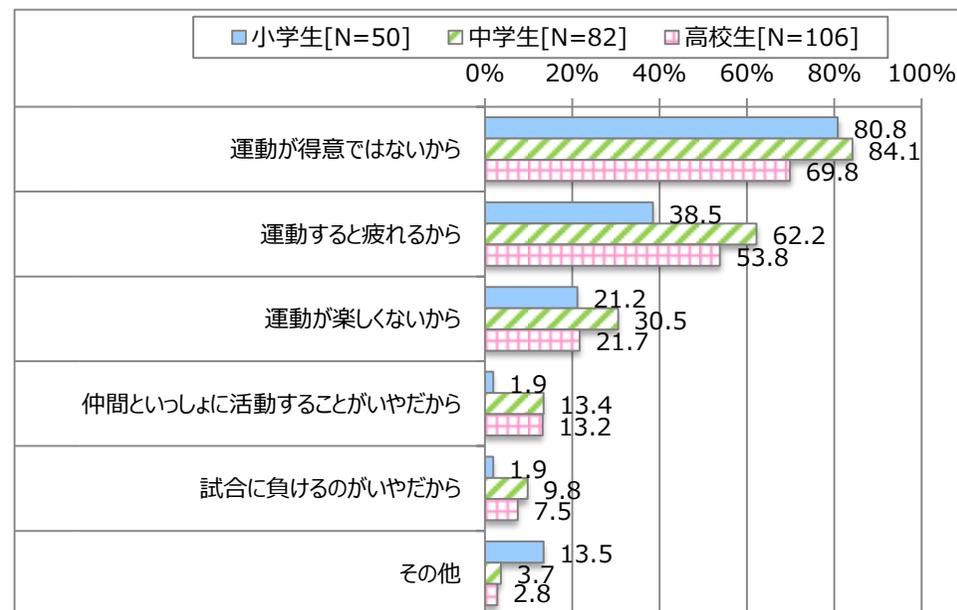
(2) 運動・スポーツが好きな理由／好きではない理由

- 運動・スポーツが好きな理由は、**すべての年代で「運動すると楽しいから」の割合が最も高い。**
- 年代間の比較で**小学生**で多いのは、「**上手になることがうれしいから**」、「**体力がついたり、健康になったりするから**」、「**運動すると気持ちがよいから**」、「**友達が増えるから**」である。
- 年代間の比較で**中学生**で多いのは、「**運動すると楽しいから**」、「**試合に勝つことがうれしいから**」、「**仲間とっしょに活動することが楽しいから**」である。
- 高校生は、「**運動すると楽しいから**」の割合が最も高かったが、小学生、中学生と比較して**これ以外に高い割合となった項目はなかった。**
- 好きではない理由は、「**運動が得意ではないから**」の割合が高かった。

<好きな理由>



<好きではない理由>

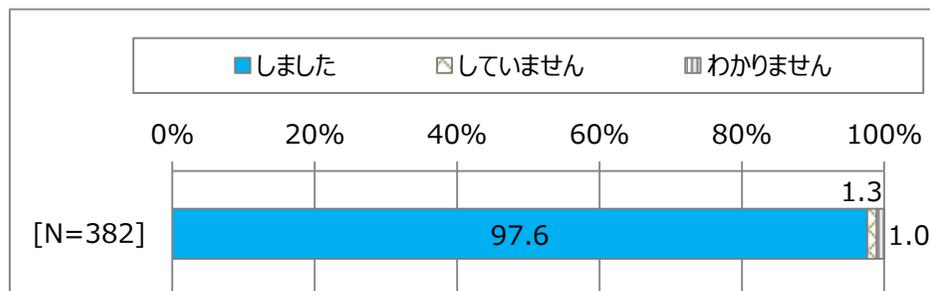


※小学生の回答は、回答数が少ないため参考扱い。

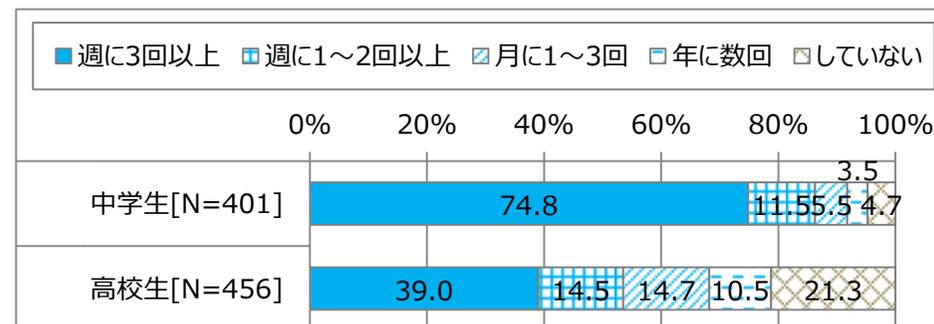
(3) スポーツ実施状況（体育の授業以外）

- 体育の授業以外にスポーツをしている小学生は97.6%である。
- 体育の授業以外のスポーツを週1回以上実施している中学生は95.3%、高校生78.7%であった。
- 週に3回以上の実施者については、中学生74.8%、高校生39.0%と高校生になると急激に割合が低くなる。

体育の授業以外のスポーツ実施（小学生）



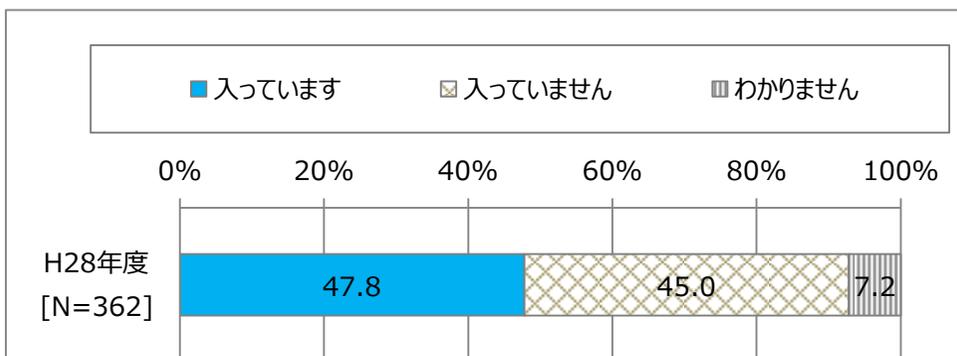
体育の授業以外のスポーツ実施（中学生・高校生）



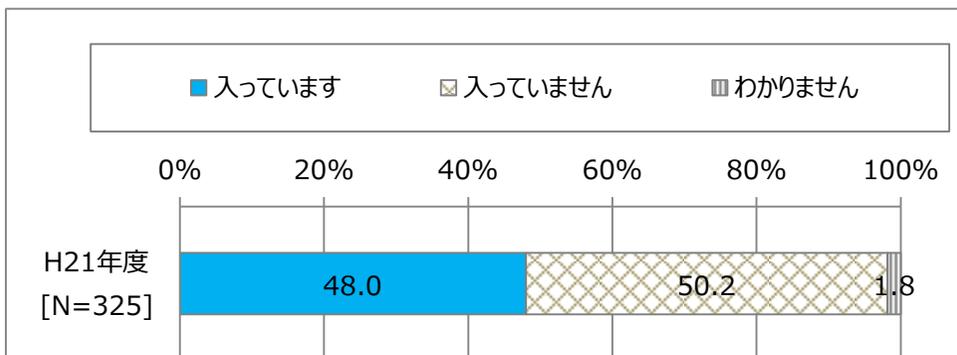
(4) 部活動やスポーツクラブへの加入状況

- スポーツ少年団やスポーツクラブに加入している小学生は、約半数で、H21と比較して大きな変動はない。
- 中学生が運動部活動かスポーツクラブに加入している割合は計80.9%であるが、高校生になると運動部活動かスポーツクラブに加入している割合は計35.4%と低くなっている。
- 高校生は、運動部活動・スポーツクラブのいずれにも加入していない割合が63%と約6割となっている。

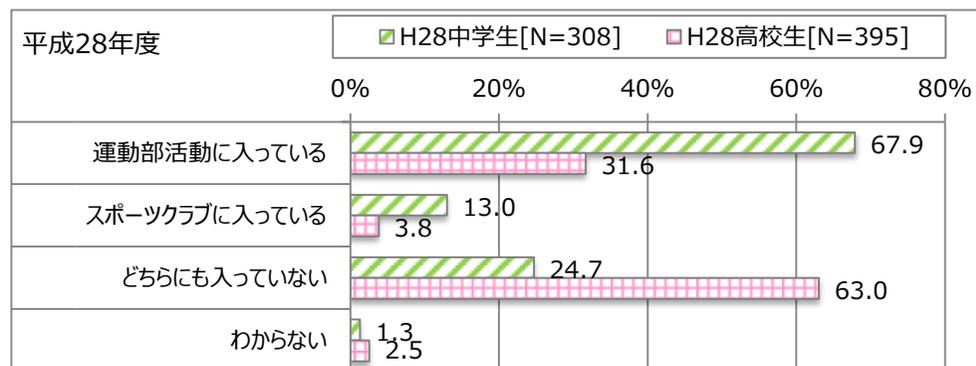
小学生：スポーツ少年団やスポーツクラブへの加入状況



(参考：平成21年度)



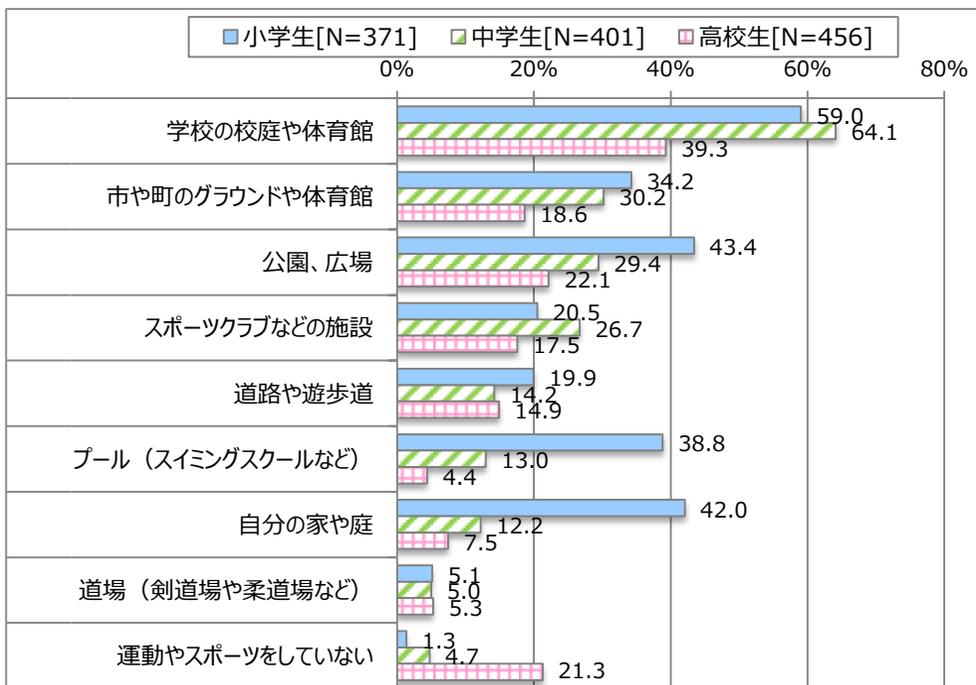
中学生・高校生：運動部活動等への加入状況



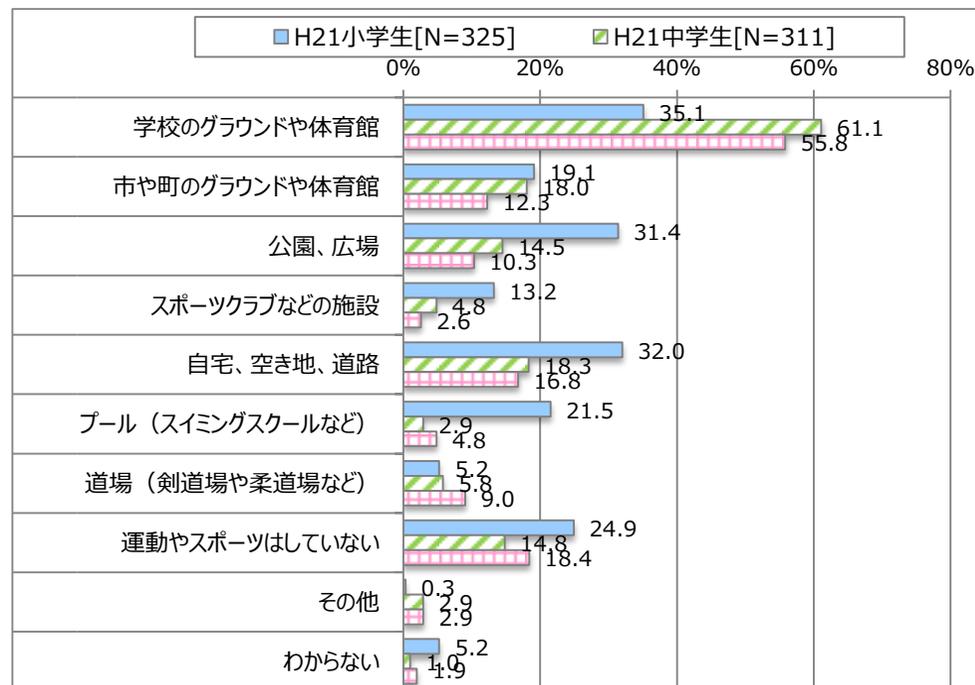
(5) 運動やスポーツを行った場所

- 小学生、中学生、高校生のいずれにおいても、「**学校の校庭や体育館**」の割合が最も高い。
- H21と比較すると、特に、「**学校の校庭や体育館**」で行った小学生の割合と、「**スポーツクラブなどの施設**」で行った中学生の割合が高くなっている。
- また、小学生、中学生ともに「**市や町のグラウンドや体育館**」、「**公園、広場**」の割合が高くなっている。

運動やスポーツを行った場所（H28）



運動やスポーツを行った場所（H21）

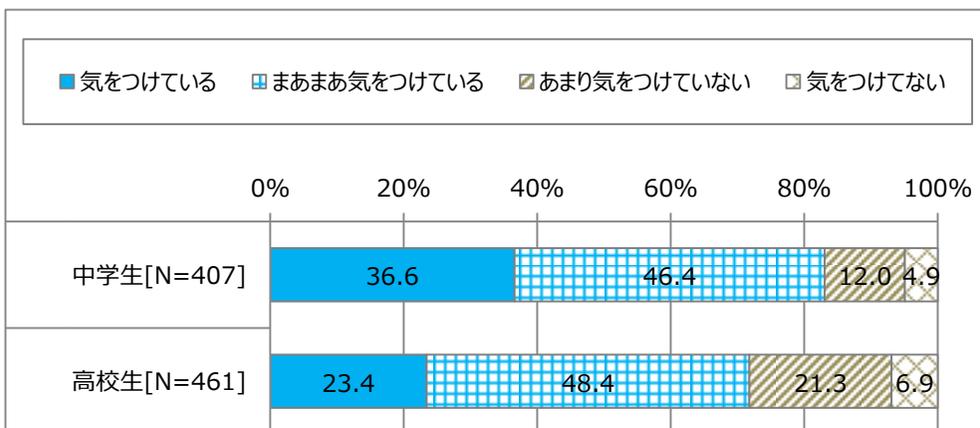


※H21の高校生調査は対象校が1校だったため参考扱い。

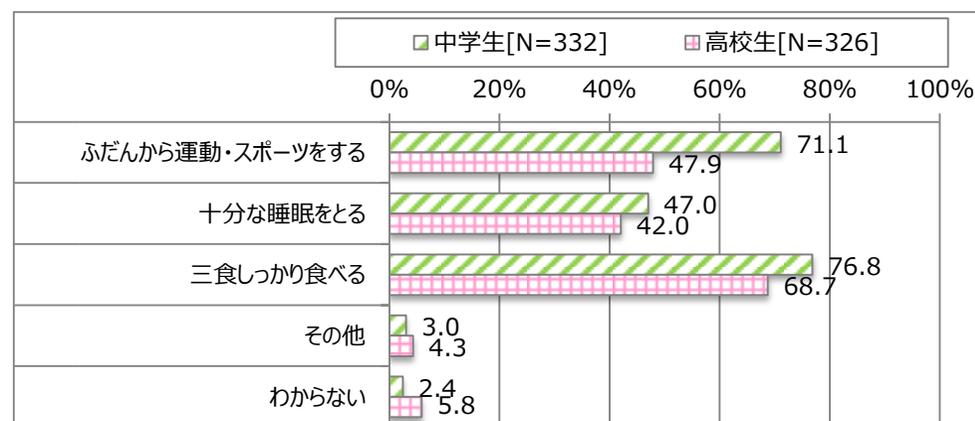
(6) 健康や体力に対する意識と行動(中学生・高校生)

- 普段から健康や体力に気をつけているかについて、「気をつけている」「まあまあ気をつけている」と回答した割合の合計は、中学生83.0%、高校生71.8%。
- 「あまり気を付けていない」、「気を付けていない」と回答した割合の計が、**中学生16.9%、高校生は28.2%**となっている。
- 健康や体力に気をつけていると回答した生徒に対して、普段していることを聞いたところ、中学生、高校生ともに「三食しっかり食べる」が最も多く、次いで、「ふだんから運動・スポーツをする」、「十分な睡眠をとる」の順であった。
- いずれも中学生よりも高校生の方が割合が低く、**健康や体力に対する意識及び行動の両面において、中学生より高校生の方が低い**という結果になった。

普段から健康や体力に気をつけているか



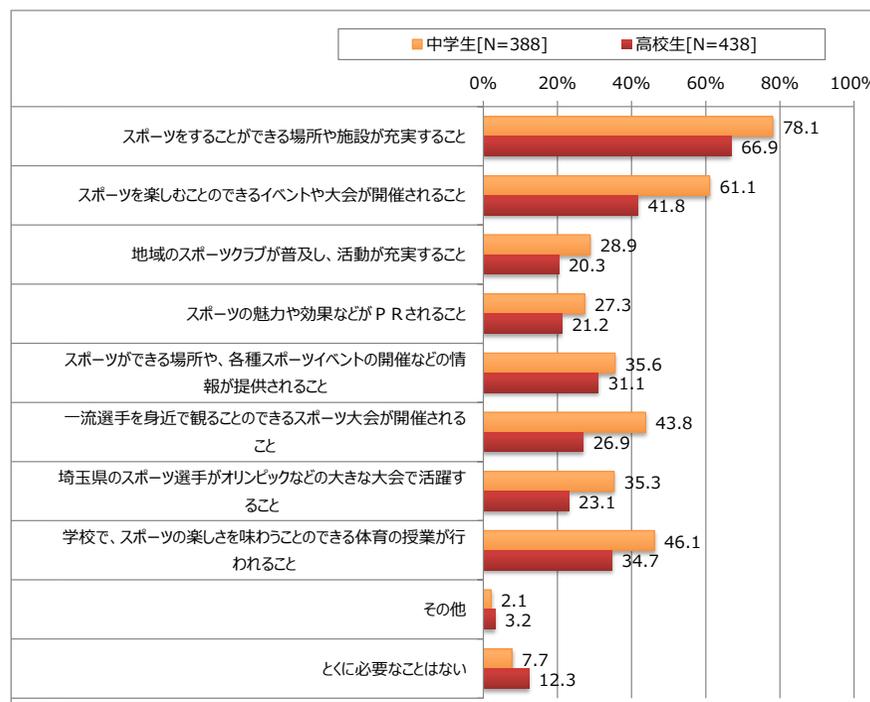
健康や体力を高めるために普段していること



(7) 今後、力を入れるべきスポーツ施策(中学生・高校生)

- 今後、力を入れるべきスポーツ施策は、中学生、高校生ともに、「スポーツをすることができる**場所や施設が充実すること**」、「スポーツを楽しむことのできる**イベントや大会が開催されること**」、「**学校で、スポーツの楽しさを味わうことのできる体育の授業が行われること**」の順で割合が高かった。
- 上位3項目は、いずれも中学生が高校生より10ポイント以上高かった。それ以外の項目では、「**一流選手を身近で観ること**」の割合が中学生が高校生より10ポイント以上高かった。「**埼玉県のスー**」の割合が中学生が高校生より10ポイント以上高かった。

今後、力を入れるべきスポーツ施策



4. 調査結果（障害者調査）

(1) 障害種別の構成比について

- 障害者調査については、成人調査と同様にインターネットアンケート調査を実施した。
- 埼玉県在住の障害のある方（及びそのご家族等）を対象としており、母数が少なく、障害種別に割付をして回答を集めることが困難であったことから、障害種別に関わらず可能な限り多くの回答を集めることを優先した。
- その結果、身体障害22.7%、知的障害7.0%、精神障害65.3%、重複障害5.0%となった。
- 障害者白書（内閣府）の推計値と比較すると、精神障害者の割合が高くなっている。
- したがって、本調査の集計結果については、これらの対象者の構成を前提に考慮する必要がある。
- なお、主要な指標となるスポーツ実施率の集計結果において、特定の障害の回答が結果に大きく影響を与えていないことを確認の上、ウェイトバック集計等のデータの補正は行わず、集計結果をそのまま提示することとした。

調査対象者の障害種別の構成

障害種別	人数	構成比
身体障害	68人	22.7%
知的障害	21人	7.0%
精神障害	196人	65.3%
重複障害	15人	5.0%
合計	300人	100%

全国の障害種別の構成（参考）

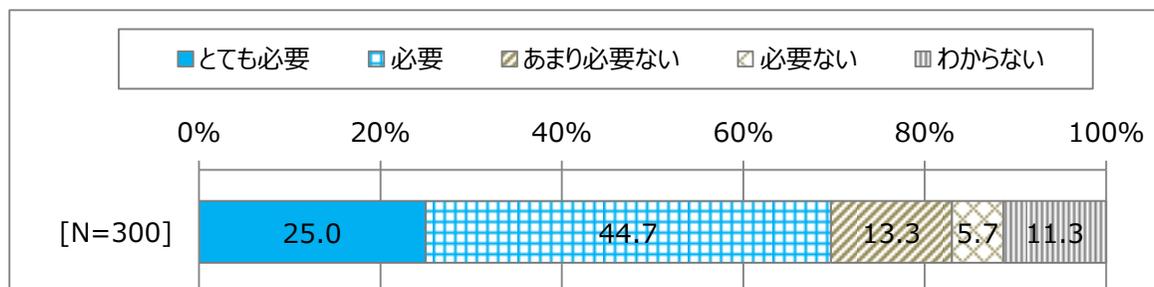
障害種別	人数	構成比
身体障害	393.7万人	45.8%
知的障害	74.1万人	8.6%
精神障害	392.4万人	45.6%
合計	860.2万人	100%

※平成28年版 障害者白書（全体版）（内閣府）より

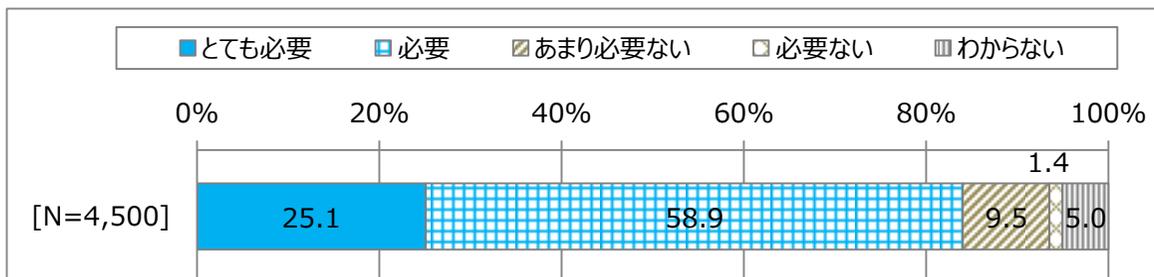
(2) 運動やスポーツの必要性

- 日常生活における運動やスポーツの必要性について、「とても必要」が25.0%、「必要」が44.7%であった。
- 「とても必要」と回答した割合は、成人全般とほぼ同じである。
- 一方で、「あまり必要ない」「必要ない」の合計は、障害者が19.0%、成人全般が10.9%と障害者の方が多かった。

日常生活における運動やスポーツの必要性（障害者）



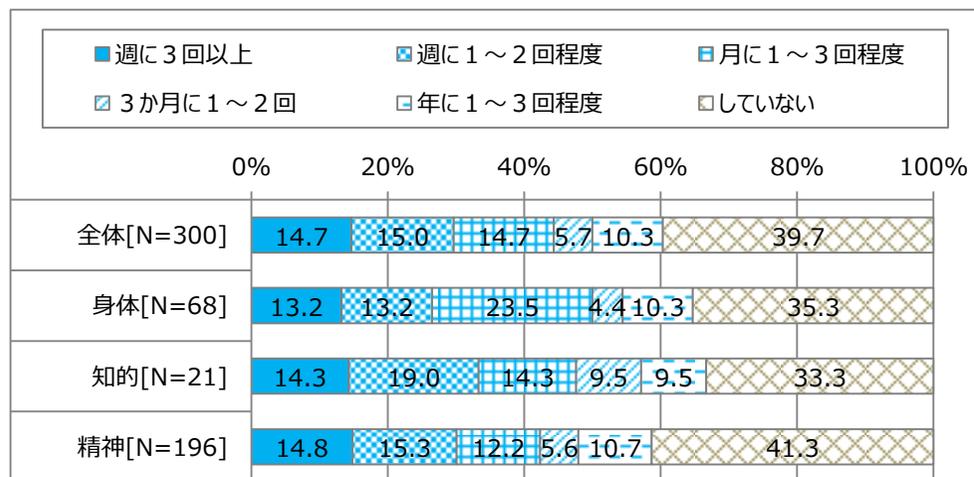
日常生活における運動やスポーツの必要性（成人全般）



(3) スポーツ実施状況

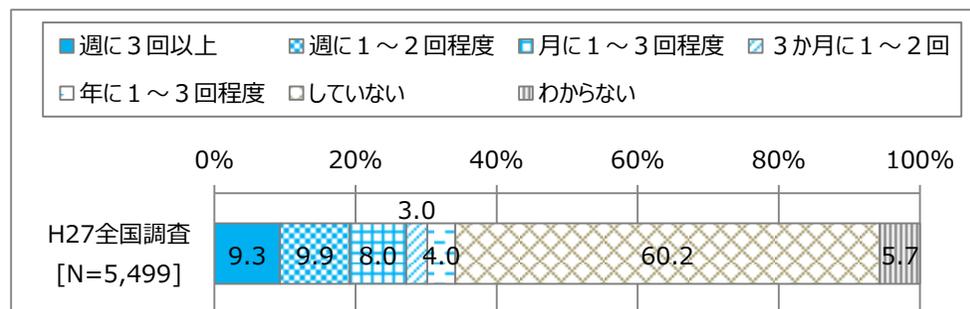
- 障害者のスポーツ実施状況は、「週に3回以上」が14.7%、「週に1～2回程度」が15.0%であり、週1回以上のスポーツ実施率は、**29.7%**であった。
- 障害種別にみると、知的障害がやや高いが、それほど大きな違いはない（サンプル数が少ないため参考扱い）。
- なお、文部科学省が実施した調査では、週1回以上のスポーツ実施率は、19.2%であった。
- 文部科学省の調査では、車椅子を使用する身体障害者のスポーツ実施率が1割程度で、その他の障害種別は概ね2割程度という結果であった。

スポーツ実施状況



※障害種別の集計については、サンプル数が少ないため参考扱い

参考：全国のスポーツ実施状況

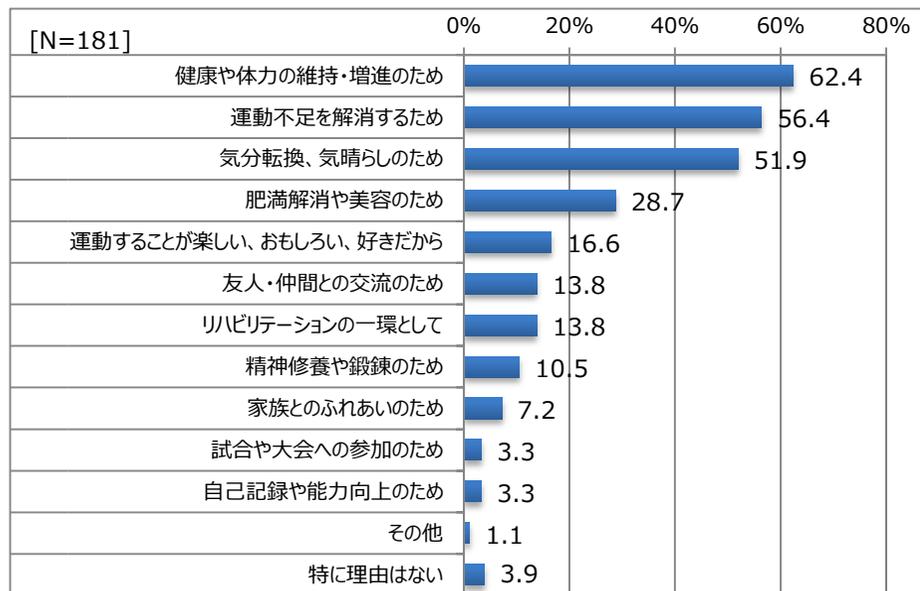


※「地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」文部科学省
 ※この調査の障害種別の構成比（重複含む）は、身体障害71.1%、知的障害23.8%、精神障害22.5%である。

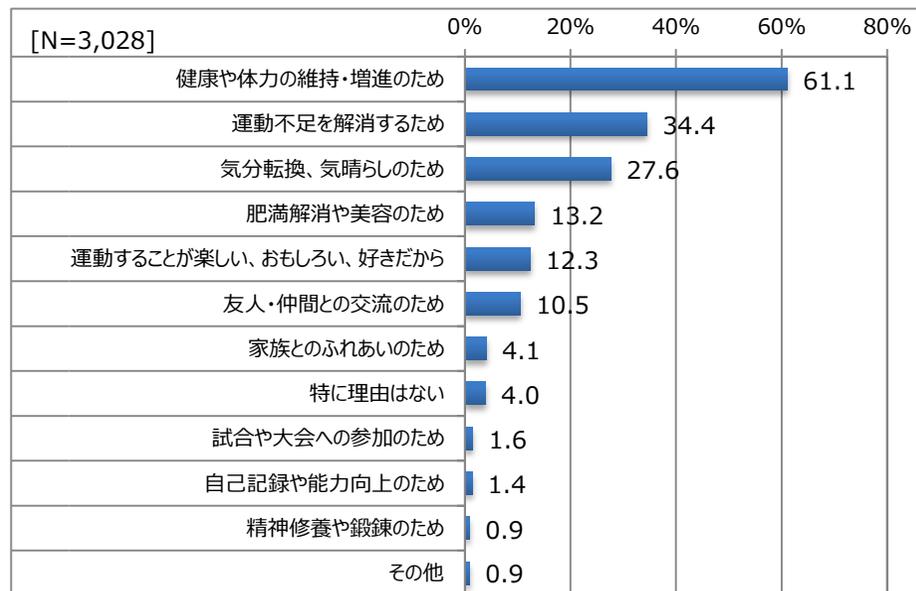
(4) 運動やスポーツをする理由

- 運動やスポーツをする理由は、「健康や体力の維持・増進のため」の割合が最も高く、次いで、「運動不足を解消するため」、「気分転換、気晴らしのため」の順であった。
- 成人全般と比較すると、上位6項目は同じである。また、これらの項目は、すべて障害者の方が高い割合であった。

運動やスポーツをする理由（障害者）



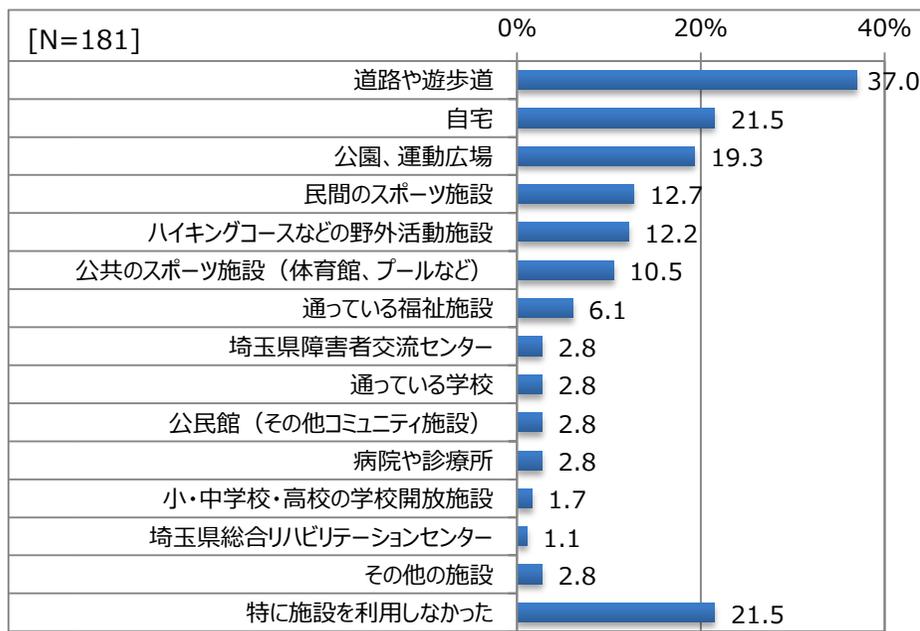
運動やスポーツをする理由（成人全般）



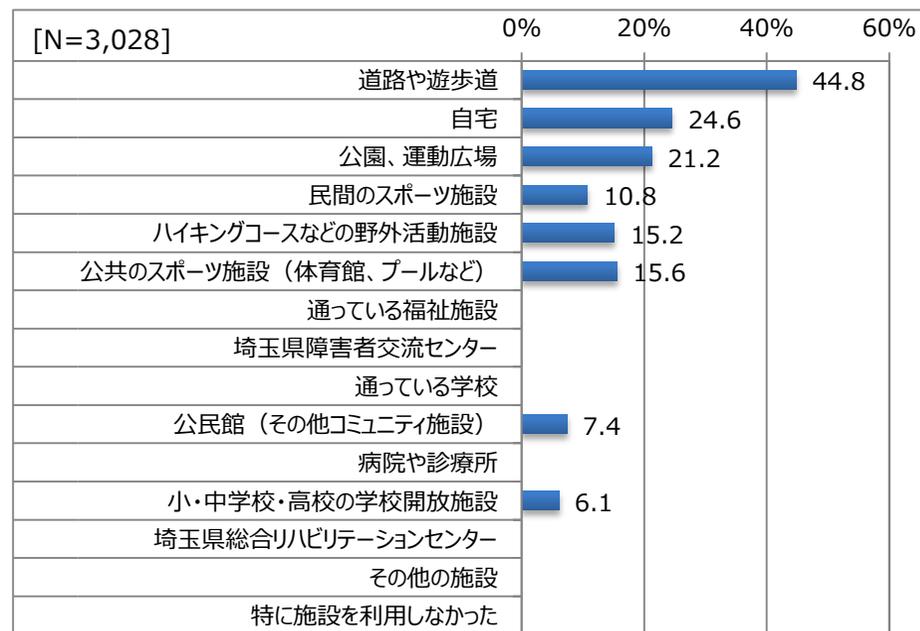
(5) 運動やスポーツをする場所や施設

- 運動やスポーツをする場所は、「道路や遊歩道」が最も多く、次いで、「自宅」、「公園、運動広場」の順であった。
- 「民間のスポーツ施設」は12.7%、「公共のスポーツ施設（体育館、プールなど）」は10.5%であった。
- 成人全般と比較すると、「道路や遊歩道」、「**公共のスポーツ施設（体育館、プールなど）**」、「**小・中学校・高校の学校開放施設**」において、**利用した割合が低い。**

運動やスポーツをする場所や施設（障害者）



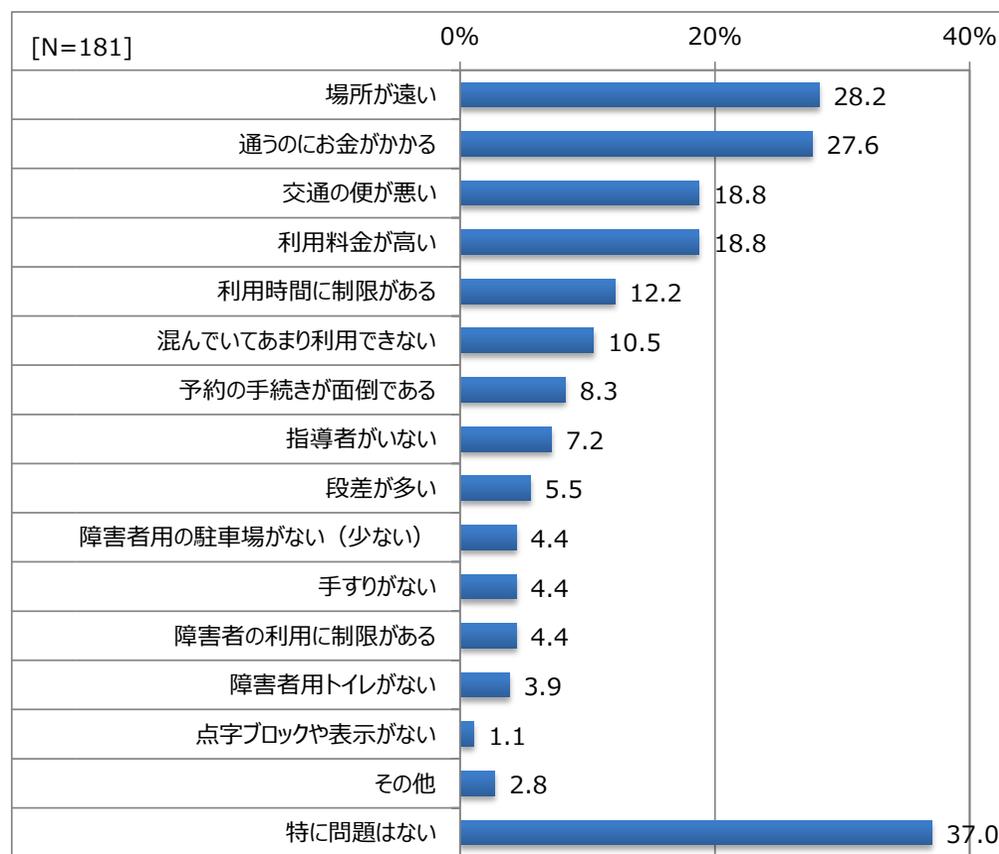
運動やスポーツをする場所や施設（成人全般）



(6) 利用する場所や施設に関する課題

- 利用する場所や施設に関する課題は、「場所が遠い」の割合が最も高く、次いで、「通うのにお金がかかる」、「交通の便が悪い」、「利用料金が高い」であり、**移動と費用負担に関する課題**が挙げられた。

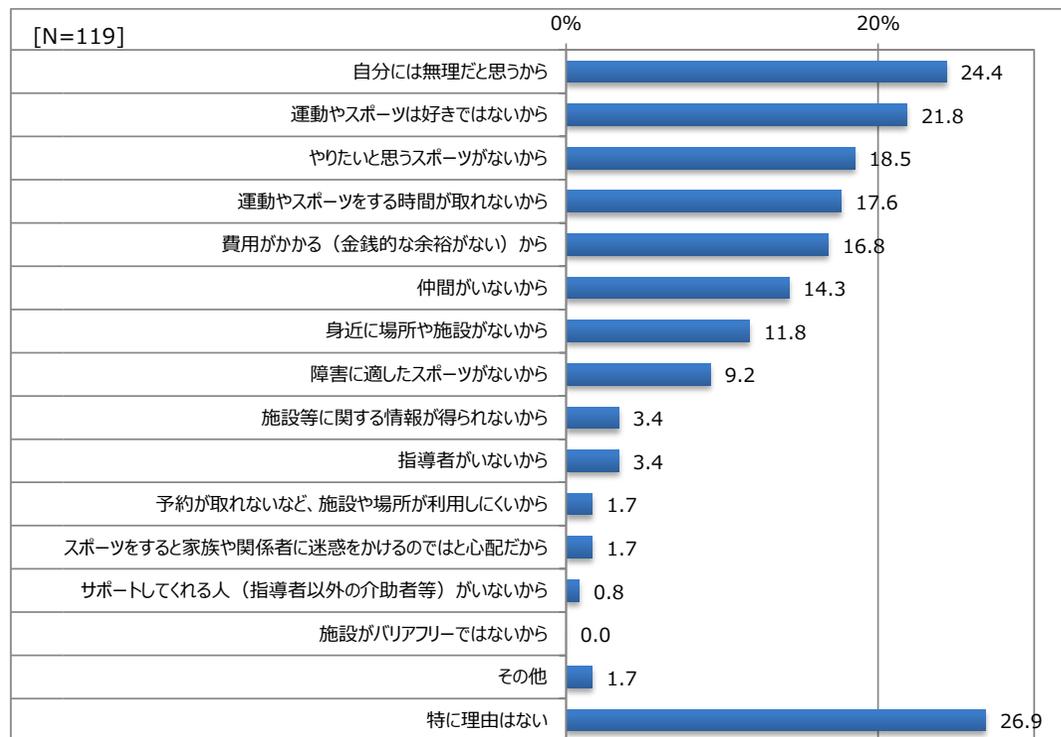
利用する場所や施設に関する課題



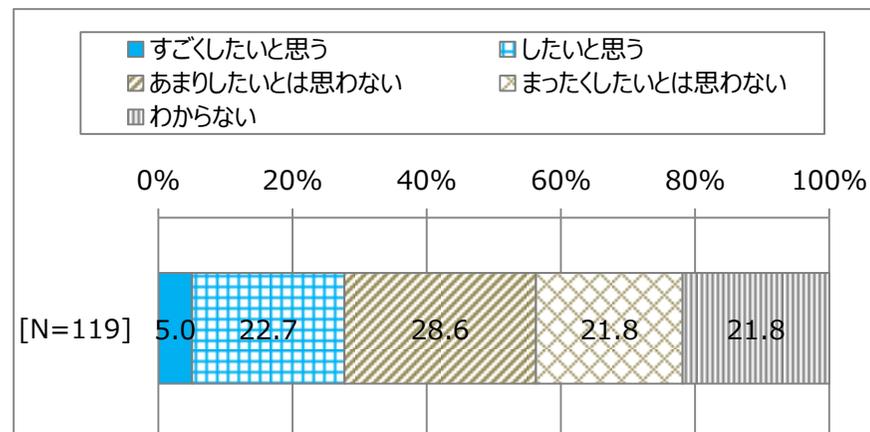
(7) 運動やスポーツをしなかった理由

- 運動やスポーツをしなかった理由は、「**自分には無理だと思うから**」の割合が最も高く、次いで、「**運動やスポーツは好きではないから**」、「**やりたいと思うスポーツがないから**」、「**運動やスポーツをする時間が取れないから**」の順であった。
- 一方、運動やスポーツをしていない障害者のうち**約3割は、条件が整えば運動やスポーツをしたい**と考えている。

運動やスポーツをしなかった理由



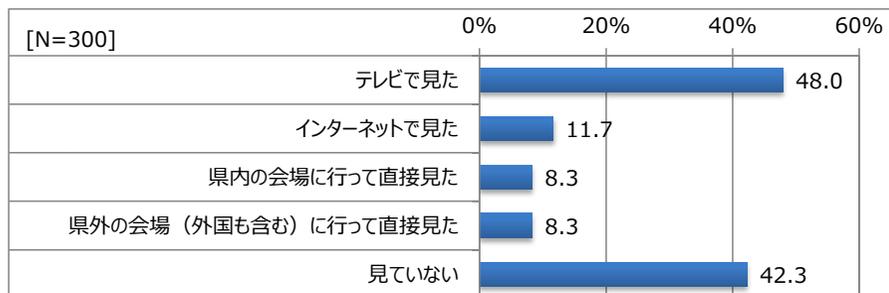
条件が整えば運動やスポーツをしたいか



(8) 「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツ

- 過去1年間のスポーツ観戦は、「県内の会場に行って直接見た」が8.3%、「県外の会場に行って直接見た」が8.3%であった。
- 過去1年間にボランティアを行った人は5.3%、今後、活動してみたいと考えている人は20.6%であった。
- 「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツについては、現状、意向ともに成人全般と同程度であった。

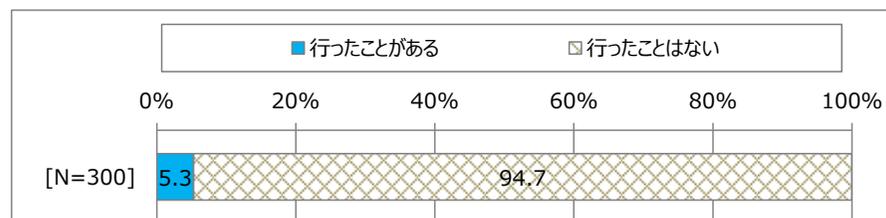
過去1年間のスポーツ観戦



参考：成人全般

- テレビで見た 51.8%
- インターネットで見たい 9.7%
- 県内の会場に行って直接見た 11.0%
- 県外の会場に行って直接見た 7.0%
- みていない 39.9%

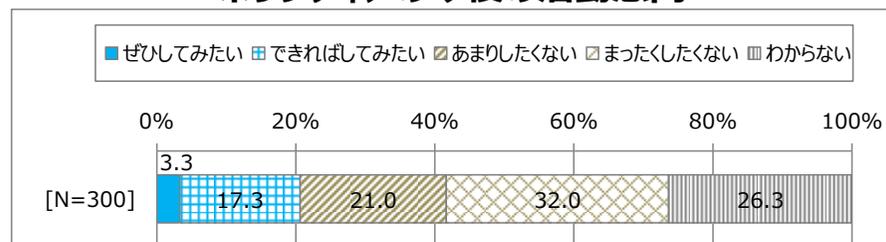
過去1年間のボランティアの実施状況



参考：成人全般

- 行ったことがある 3.9%
- 行ったことがない 96.1%

ボランティアの今後の活動意向



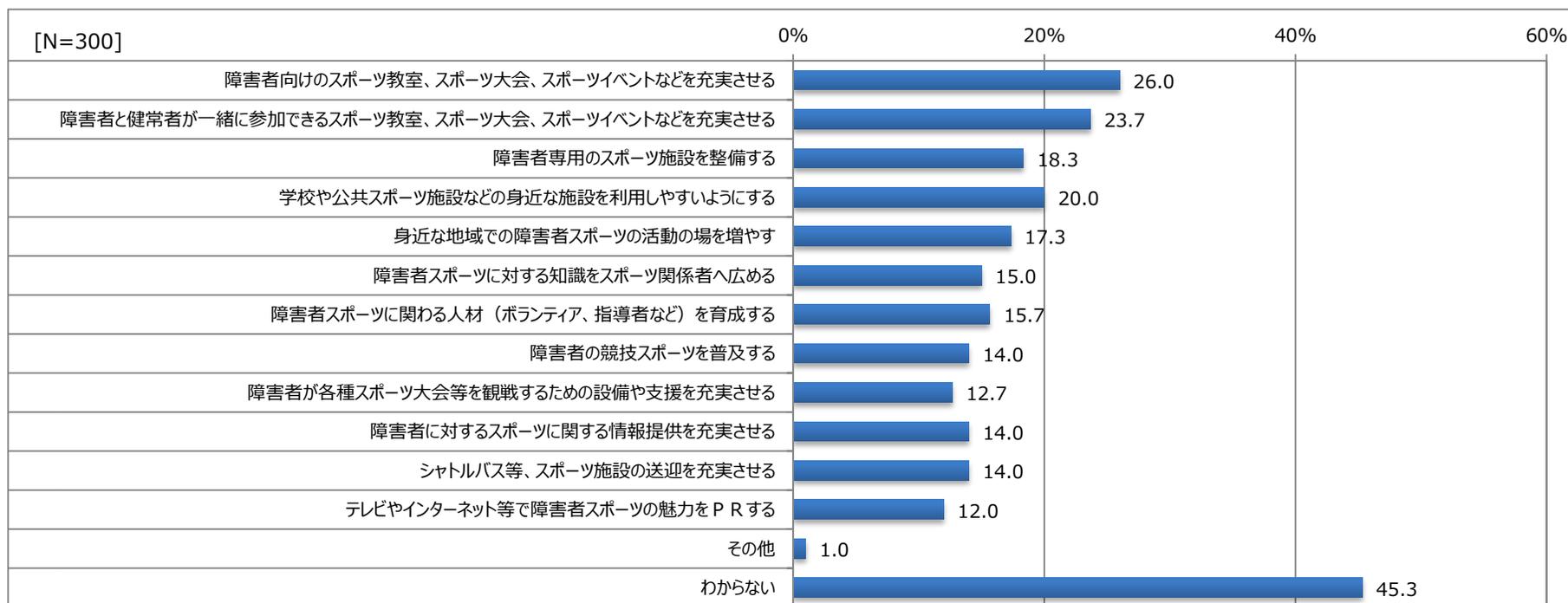
参考：成人全般

- ぜひしてみたい 2.0%
- できればしてみたい 18.4%

(9) 障害者スポーツの充実・発展に重要なこと

- 障害者スポーツの充実・発展に向けて重要なこととしては、「障害者向けのスポーツ教室、スポーツ大会、スポーツイベントなどを充実させる」の割合が最も高く、次いで、「障害者と健常者が一緒に参加できるスポーツ教室、スポーツ大会、スポーツイベントなどを充実させる」、「学校や公共スポーツ施設などの身近な施設を利用しやすいようにする」、「障害者専用のスポーツ施設を整備する」の順であった。
- **障害者に特化したイベントや専用施設が計44.3%、ユニバーサルなイベントや利用しやすい身近な施設が計43.7%であり、それぞれ同程度に重視されている。**

障害者スポーツの充実・発展に重要なこと

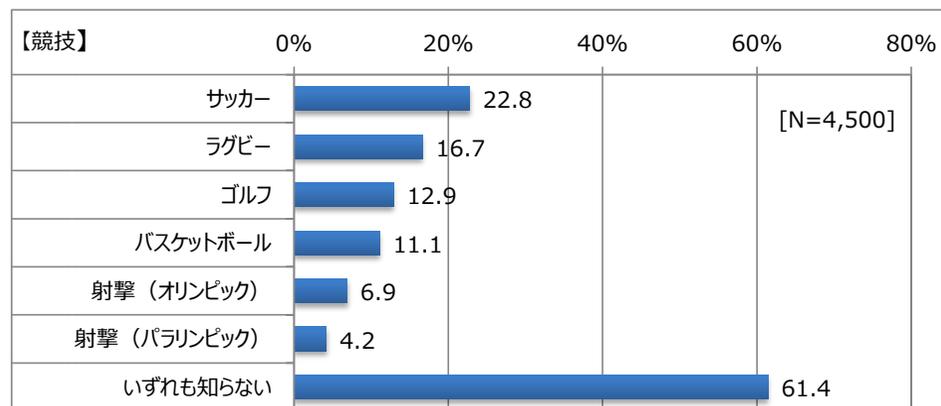


5. 調査結果（オリンピック・パラリンピック等に関する項目）

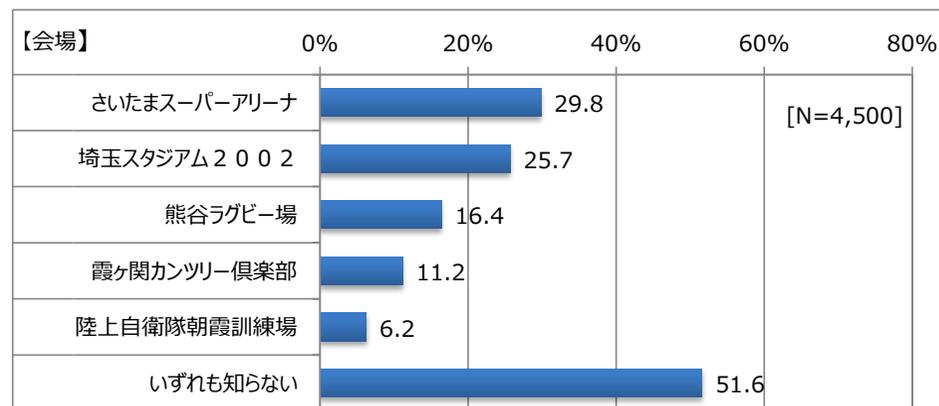
(1) ラグビーワールドカップ／オリンピック・パラリンピックの認知度(成人)

- ラグビーワールドカップ2019、東京オリンピック・パラリンピックについて、県内開催競技と会場を知っているかを質問したところ、**開催競技を知らないと回答した人が約6割、会場を知らないと回答した人が約5割**であった。
- 開催競技で最も**認知度が高い競技は「サッカー」、最も認知度が低い競技は「射撃」(パラリンピック)**であった。
- 競技会場で最も**認知度が高い会場は「さいたまスーパーアリーナ」、最も認知度が低い会場は「陸上自衛隊朝霞訓練場」**であった。

県内開催競技を知っているか (成人)



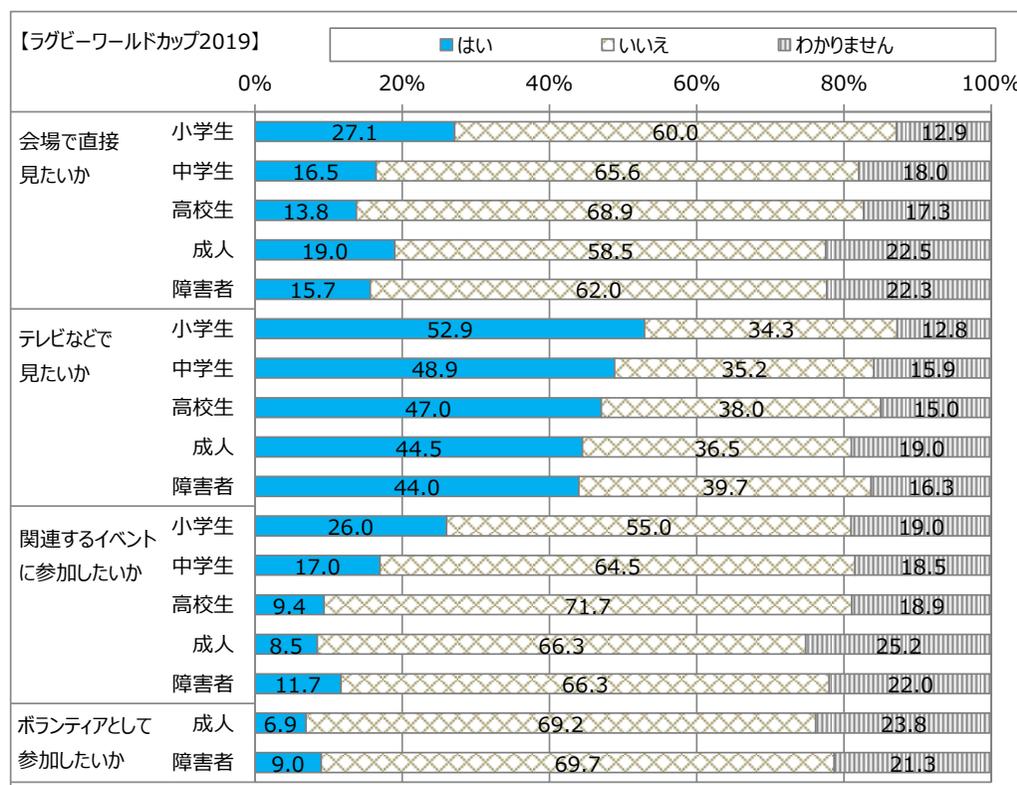
県内開催競技の会場を知っているか (成人)



(2) ラグビーワールドカップ2019への関わり(児童生徒・成人・障害者)

- 会場での直接観戦意向は、13.8%～27.1%となっている。小学生が最も高く27.1%、成人は19.0%であった。
- テレビでの視聴意向は、44%～52.9%となっている。小学生が最も高く52.9%、成人は44.5%であった。
- 関連イベントへの参加意向は、8.5%～26%となっている。小学生が最も高く26.0%、成人は8.5%であった。
- ボランティアへの参加意向は、成人が6.9%、障害者が9.0%であった。

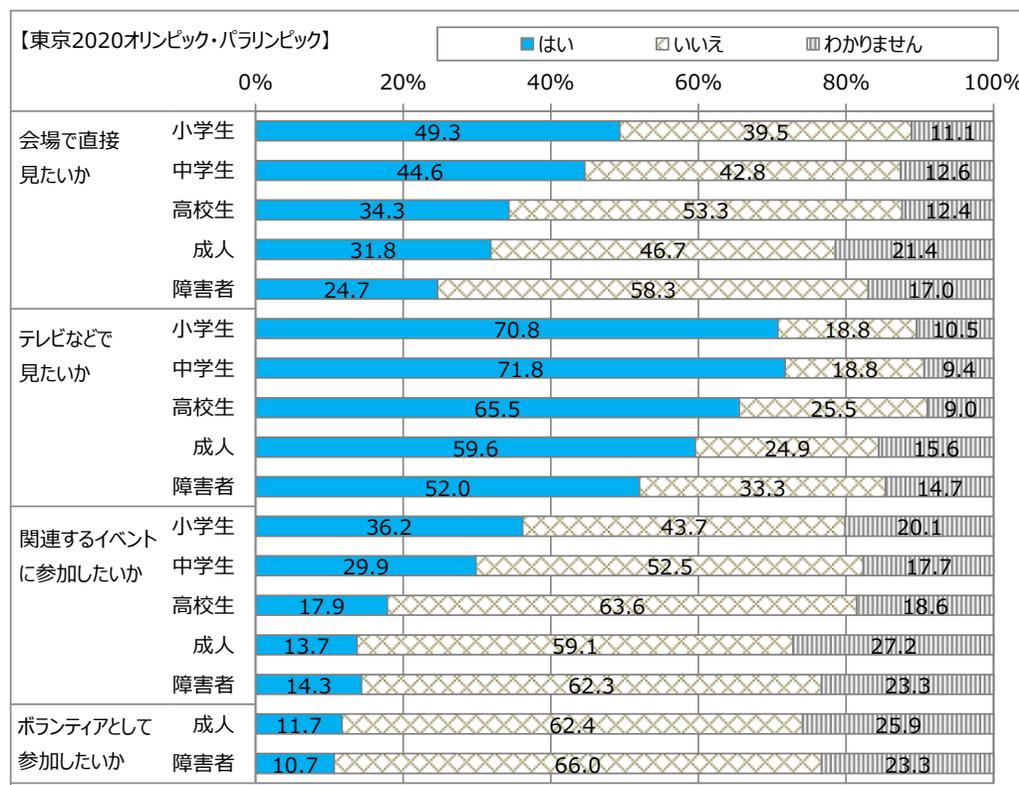
ラグビーワールドカップ2019への関わり



(3) 東京オリンピック・パラリンピックへの関わり(児童生徒・成人・障害者)

- 会場での直接観戦意向は、**24.7%~49.3%**となっている。小学生が最も高く49.3%、成人は31.8%であった。
- テレビでの視聴意向は、**52%~71.8%**となっている。中学生が最も高く71.8%、成人は59.6%であった。
- 関連イベントへの参加意向は、**13.7%~36.2%**となっている。小学生が最も高く36.2%、成人は13.7%であった。
- ボランティアへの参加意向は、成人が11.7%、障害者が10.7%であった。

東京オリンピック・パラリンピックの関わり



(4) 県への誇り(児童生徒・成人)

- **小学生の8割以上が、スポーツが盛んな埼玉県を誇りに思っている**と回答した（「そう思う」と「まあまあそう思う」の合計）。
- 一方で、中学生77.1%、高校生69.6%、成人60.8%であり、**誇りに思う人の割合は徐々に低くなっている**。
- 成人の中で年代別にみると、**30代が52.8%、20代が53.8%**と約半分程度となっている。

スポーツが盛んな埼玉県を誇りに思うか

